守貞漫稿

巻十七欠　巻　十八

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

守貞謾稿巻之十六

文政庫

婦遊笑覧ニ古服ノ事ヲ云条ニ曰

喜多川季荘尾張藩守貞誌

制ノ門詔曰云云綺上下通用帯白キ袴其余者如常コレ

カミシモケモキヨ

庶人ノ服色ハ纔ニ日本紀慶雲二年十二月一日勅令天下

脱脛袍一著白袴ナドモ皆唐ニ擬セラレシヨリ也又先ニモ

コノミ改サヲリシト見ヘテ養老三年二月壬戌初令天下百姓右

襟云ミトアレバ是ヨリ以前大カタ左衽ナリシニヤ又

命令アリシガ行レズヤウノ事項其ノ川スヂノナリシヲ禰制令アリ

テ改リヌリヤ又以外ニ故アリシ歟ソハ知ベカラズ又続日本紀天平

二年四月庚午詔曰云々自今以後天下婦女改旧衣服施用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

新様トアリ其裁縫ノヤウ今義解ニ見ユタリ（此時大宝令ヲ撰シテヨリ二年ニ過ス）

古男女互ニ衣ヲ借テ着ルヲアリ万葉一大行天皇幸于吉野宮時歌（此大行天皇ハ文武天皇ヲ）宇治河辺山朝風寒之旅尓仰（カスベキ）衣應借妹毛有勿久尓（アラナ）十ト見ユ元ヨリ褻ノ如クニテ外ニ用ルニハアラス魏志倭人ノ好テ婦人ノ服ヲ着タリトナン泉或部ガアヲヤリヨリ思ノメテキトカルハ女カ男ノ服ヲ借タルノ衣服ヲ唐ノ制ニ倣ヒテ雖モ時世ニツレ移リ変ルハ自ラノ勢シ續日本後紀承和五年二月乙丑敕位次四位下池田朝臣春野卒春野者天應以往之人也ト春野宿祢能説故事或有採答此十年冬、将有大嘗會天皇欲修禊秡幸賀茂河春野ハ掃部頭奉鹵簿陣着諸大夫皆着青色其裾曳地大笑曰是梁帝之裝束非神変之古體候指自所着為古體之證其裾離地差高而袴襴露見実諸大夫皆驚古之儀制應ト云ヒナカラカレハ具ヲヲセ余歳ト押当ルニ天平宝字見ノ人ナルベシ

僅ニ余リ地ニツク長ク地ニ曳ケハ十ヨリシテ下襲ヨリ續テ長ク曳ケバ其領下ニ引モ准ヘテ長ク曳ケハ十ヨリシテ下襲ヨリ續テ長ク曳ケバ其領下ニ引テ需キ故ニ別ニ切放チテ用ルトゾ

赤ダ古ニ遠ヤラザルニ当時古風ヲ和スル長歌ニ春野ヲ須義礼今同ジ○萬葉七池主家持ノ哥ヲ平都乎茅ヲ路多倍乃穢泥乎利可撃之久礼奈多能安可袁可毛須蘇妣伎平登賣皮波之ニ出タルヲヤシ安可袁ハ紅袴ヲ古ヨリ中古迄下ノ袴ヲ紅袴ヲ着タリ衣服令

無位官人ノ制ニ緑縹紬纐纈紅裙四孟叓帯則腰ニ着
五位以上女除父朝服以下色者通得腰ニ其廣女腰同無位
宮人トアリ清少納言ニゲナキ物ノ条ニ(下同)ゲスノクレナイノカマキタルト見ヘ
又宇治拾遺越前国敦賀女ヲ観音助ケシ語ニノレナイノ
スドシノ袴ノアルヲ見ヤ取セテントト思ヒテワレハ男ノ脱ルスドシノ袴ノ
着テ此女ヲ呼ヨセテトニ志バカリニ是ヤトテトラスレバ此女ノ母ニ仕ヘタリシ
江談抄ニ花山院御時被禁女房ノ下袴ヲ見ヘタレバ是ヲ一具ニ止
タリト見ヘテ續日本後紀承和五年十二月弾正臺奏朝服
之色明在法條而今會集之時有緑無縹僧上之弊遂
致失敗ニ紫緋之品其物然易就而正緑縹之次其類
探多難得而紫ニ今ヲ考ルニ服色緑ノ次ハ紺其次ハ縹ニ故ニ
階上タリ紫ト緋トノ間ニ蘂方アリ是ヤ著ヤ

イヤチニ紅ニ易リ緑ト縹トハ少ノ濃淡ヨリテ
紀ニカタキニヤ

乙未勅頃者風俗流漓凋弊相尚奢費之術倹約是憑旨
今以後女射腰裳褰之表紗冬中裙不論貴賤一切禁断
一襲之外不得重着京畿七道准制林
表袴ノ下ニ累子着ルトアリ清少納言ニ大口ナカサヨリ口廣ケレバ
袴イトアシキナシ和名抄唐令云慶善舞四人白絲布大口
袴和名於保久乃八賀乎一云表袴トアルヲ見ヘタリ緋儀ノ為ノ
服ニノ且表ニ着ル物ト見ヘタリ大口袴ノ前張ノ下袴腰次ノ下ニ
乗ノ大口ハ前張ヲウシロ前ニテ着名物トゾ
侍テ直垂ノ時ハ袴ノ下ニ重ネテ着セリ大口ハ
四尺大師馬傳ニ添ノ時国ガ夜討ノ兵ト戦フ
着タリ奏多陪従ニ大口袴ノイカル笑フベシ
女服裙アリテノ裳ナク褶アリテ袴ナシ和名抄裙裳衆名云上曰

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

裙下曰裳（和名毛）ト云袴ノ条ニ釈名ヲ引テ裙者連也ト見エ又女ノ袴トスル物ハ裙ナレバ今ノ袴ハカザルシテ裙裳ハ上下ノ名異ナルニテ一ツ物シ又裙ヲ引ヒラ引トハ日本紀ノ訓シ催馬楽ニハ引ハモトヨリ染塵秋扇ニ引ヒラセト見ヘタリ神祇式ニハ表裙（ゆはも）ト二物タリ藻塩草ニ裳ヲハモ女ハ袴ノ上ニ裳ヲ着ルシ裙シトヨルハ後ノ唱シ東雅ニ推古天皇十二年ノ詔ニ諸王諸臣ニ命セシノ裙ヲ着セシメル見テ天武天皇十一年ノ詔ニ裙ヲ着ルコヲ停ヌル又大宝ノ令ニ至リテハ親王諸王諸臣礼儀ノ時深緑深縹萌黄ノ紗裙アリテ是ハ婦人ノ股ノ三ヲ二ハ非ストヨリ後ニハ男ノ股スルハヤリ女ニノミ残リタリノ中古ハ専ラ裙ヲ裳トヨリ深詰赤摘花菱ノ常陸ノ宮ノ古風ナルヲヨス新女房白キ衣ノイトシラズスケルニキタナゲナル

ニビラノヒキエマデ名腰ソキヤタクナヒケシ晴蛉巻ニヤキリアレハ宮ノ君キアヤノ御娘ナドウチキタルハ男ノ装束ニタルトハウチキニ裳バカリ着ルハ男ノ小袖ニ袴バカリノニキニビラキタリシヲアサヤキタレバ具裳ヲトリテ玉ヒテヒラニトハヒラメリ意ニビラトハ後ヒラニヤ裳ノ地摺ノ裳下濃ノ裳目添ノ裳イロく西宮記ニ見ヘタリ今ノ世ニハ帯シ裳ノ中ニ領領ト云テ各別ノ物ナリ是モ真ノ細知ラズ昔ノ領領トハクヽリソメノコシ帷結雄結アリテ領ト領ト別ナルコト延喜儀殿纂式ニ見ヘタリ衣服令義解ニ五色ノ交（綵）ニテ領ノ文ヲ作ルトヨリ和名抄ニ領ハ帛ヲ結ビテ文ヲ形ヨナスヲ凡領領ハ裳ニ限ラズ唐衣ニモスルコシト承リ申候トアリ右ニ

引ル承和七年ノ令條ニ女叓服喪ヌ表紗ヌ裏紗ヌ此表紗即チ
褶シ頃日褶スバ男ハ着ザリシト見エ又見ラバ夏日用ル物ノ如シ
衰ノミハアラズ衣モ後世ノ如ク多リ重ネ
官女ノ服ヲ十二重トセ或ハ夫ヲ非シトニテ五ツ衣トセ又五ツカサネトモ
倶ニ綾ニテ裏ハ平絹ノ紅シ女官飾抄ニ記スベキ御方ハ七ツモハツモ
十モ時ニヨリテ重ネラルル只今ノ人ハ五ツヨリ外ハイタク用ヒ候ハズトアリ
十二單トセ名モ源平盛衰記ニ女院ハ御焼石ト御硯ノ箱トヲ御袂ニ
宿ニ入御母ヲ重ノニテソヒギテ海ニ入セ玉フヌ弥生ノ末ノコナレバ袿
重ノ十二單ノ御衣ヲ召ヌ緋綾懐ヲ十襖アクルハ人ノイトニヤ中ヲヲ
衆花物語ハ万寿二年正月大饗ニ女房遣戸ヨリ内ニ參リマム
処ニ參ルホドキヌノスソナドトラセ參レヨニテハアフギヲモヲサシヤリサズ

衣リゴチタリアツケレバタオヤカナルケモ
ホマロビテ出スレバスヘナクテ好ムトナケレド
スルハ衣多ク着タレバシヌヽ衣ノ妻ヤサナリタルホド一サクヨバカリ見ユ
夫故ニヤラ衣モ後ビタルシ
ナヽ居テ打出ヒタル衣ノ妻シ一尺余バカリ青
オメリ出タル所ヲス 守貞謾稿ニアラズ
一人ニ一色ヲ五ツ三色着タルハ十五ツ或ハ六ツ七ツノ多ク着タルハ十ハ二十三ツ
アリケルヌヽ又道慶此由関白殿ニ尋ラルヽニ
ムヤラセ玉フ処ニ
居ヘバ中宮大宮ナトニハ皆申知ラセラルヽイミジキ折節ニモタヽハット
宣メ申タルヲアヤマタセ玉ハヌニ此宮姫ヲ
見ハタリ是非ハ特ニ珍ラカ也ヌヽ江嬉遊笑覧ノ文ヽ予ハ民間ノ
ヲ云ントス欲スル人要ナキニ似タレド春野ガ裾ノ古體ヲキルトニ節信中納言
地ノ式正ノ服如此ト云リヲ以テシ式正ノ服如此況ヤ民間ノ潜

考古無據ト雖モ押テ可知シ

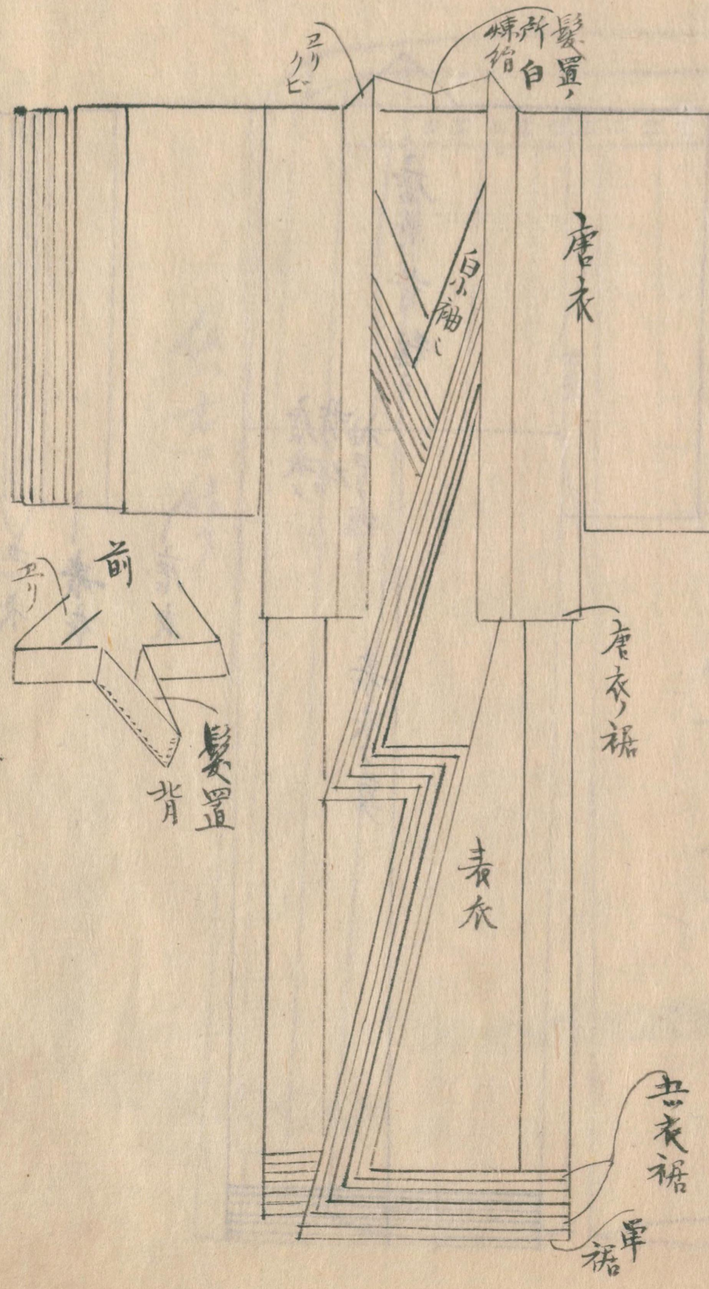
因云官女ガ五ツ衣トカニノ着用ノ次第ハ先下ニ白小袖次ニ緋ノ袴次ニ単次ニ五ツ衣イツキヌハ上臈織紋中臈下臈ニ同色次ニ表衣ウエノキヌハ上臈織紋中臈下臈綾ニ次ニ唐衣カラキヌハ上中下臈ニ次ニ裳ヲ着シ如此次第ニ着ス是ヲ俗ニハ十二単ト云シ堂上ニモ云ヘシ唐通ノ装束ノ次ヒ

又上衣ト表衣ヲ着サル時ハ小袿ヲ着ス小ウチキハ広袖ノ地綾ヲ用ト表裡ノ色四時ヨリ数品アリ小袿ノ時前ニ云ル如ク男ノ小袖袴ニ准スル

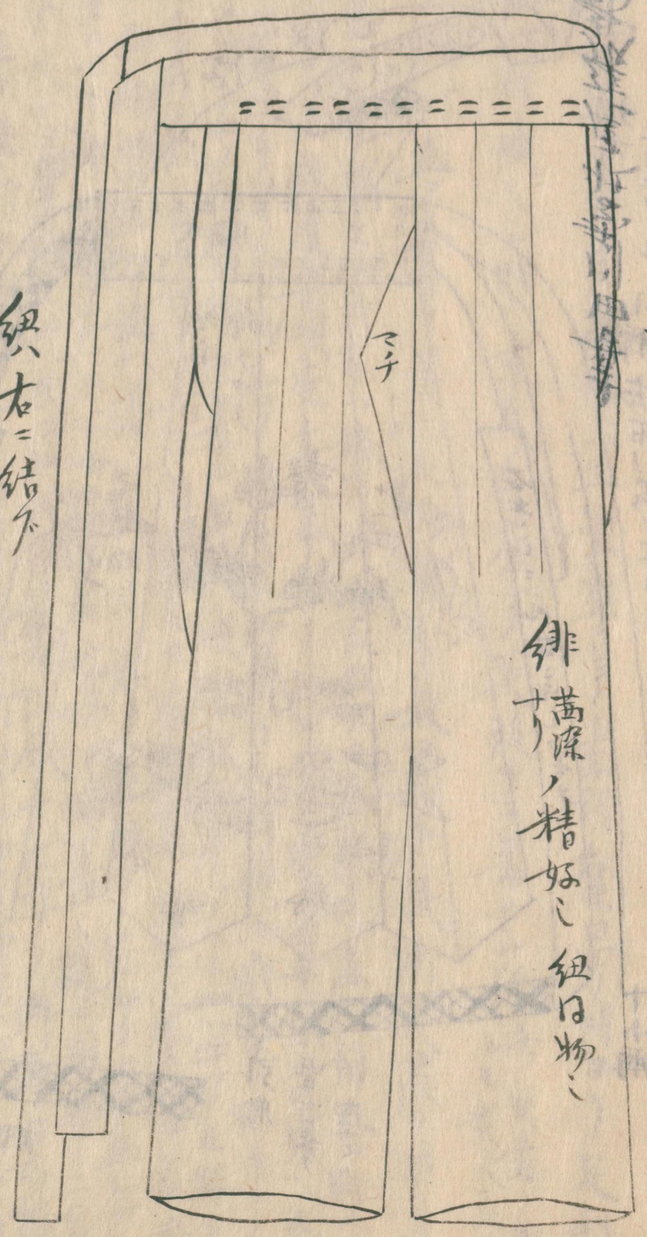
又曰嫁遊ハ一ノ文ヲ用ヒ帳ノ内ニアラザレバ又裳ヲ着ス是ヲ俗ニ

裁ル物本ニテ天子ノ帳衣ニ仮ヒ織ル事ハ一月ヨリ十二月ニ至ル三十六重ノ帳衣ヲ織ル一月ニ完シ即十日ツヽ百ハシ一月元日ヨリ十日迄百サルヽ子ノ日ノ帳衣ヲ織ル事ハ若菜ノ帳衣トモ七種ヲ織ル此色ヒ下旬十日ヲ霞ノ帳衣ヲ織ル事ハ皇后ノ帳衣ト云ヒ空色ニ織リ白ヒ雲ヲ織ル事ハ中宮ノ帳衣ト云ヒ青色ニ織リ一月ヨリ十二月ニ至ル迄皆異ナリ天子帳衣ノ一説ニ又今ヲ五ツヤ又今ヲ五ツヤ根ヲ云ヒヘトモ十ニツバ其証ノ書ニ詳ナルベシ

十二単々画前



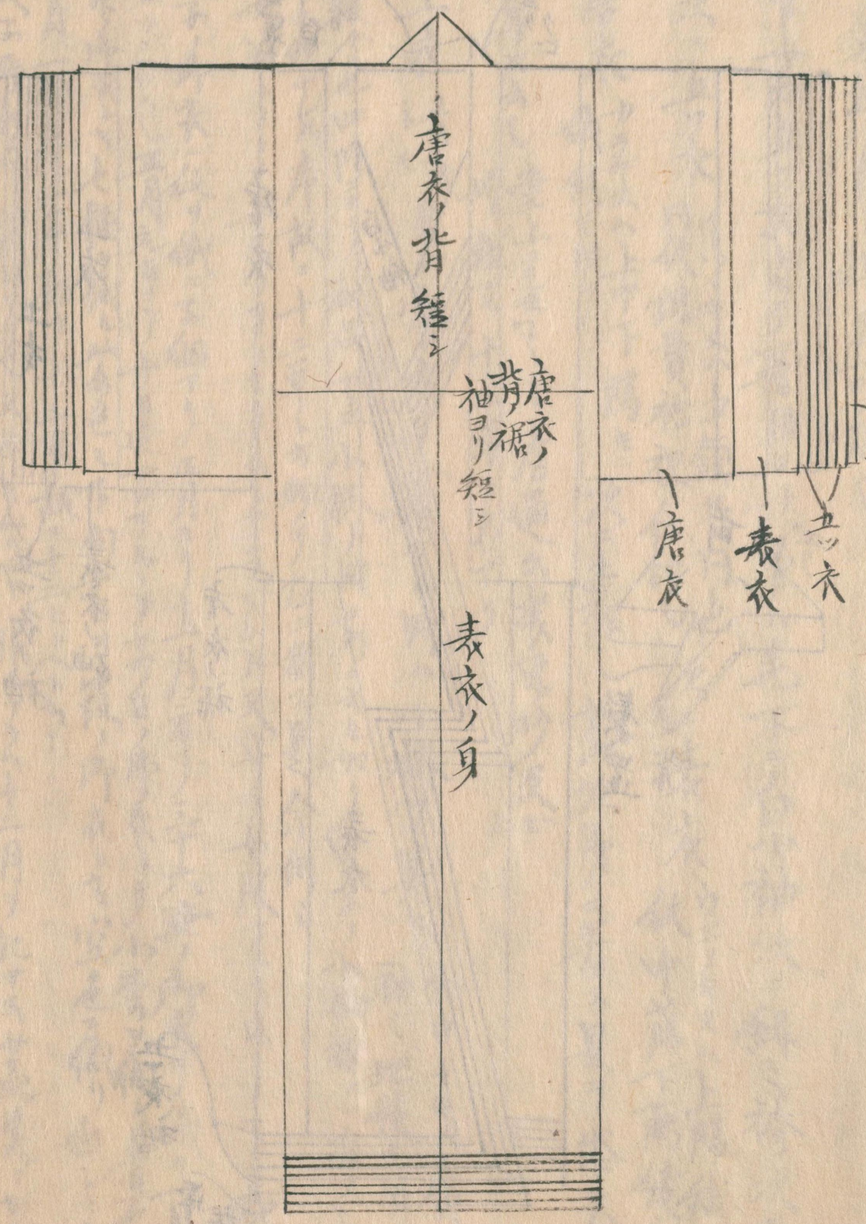
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用



同袴ノ画 俗ニ云緋ノ袴シ又ハ行燈ト云 板引ニ張タルヲ張袴ト云 昔ヲ案ニ

緋萬深ノ精好シ紐ヨ物ヘ

同背



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

裳之裳

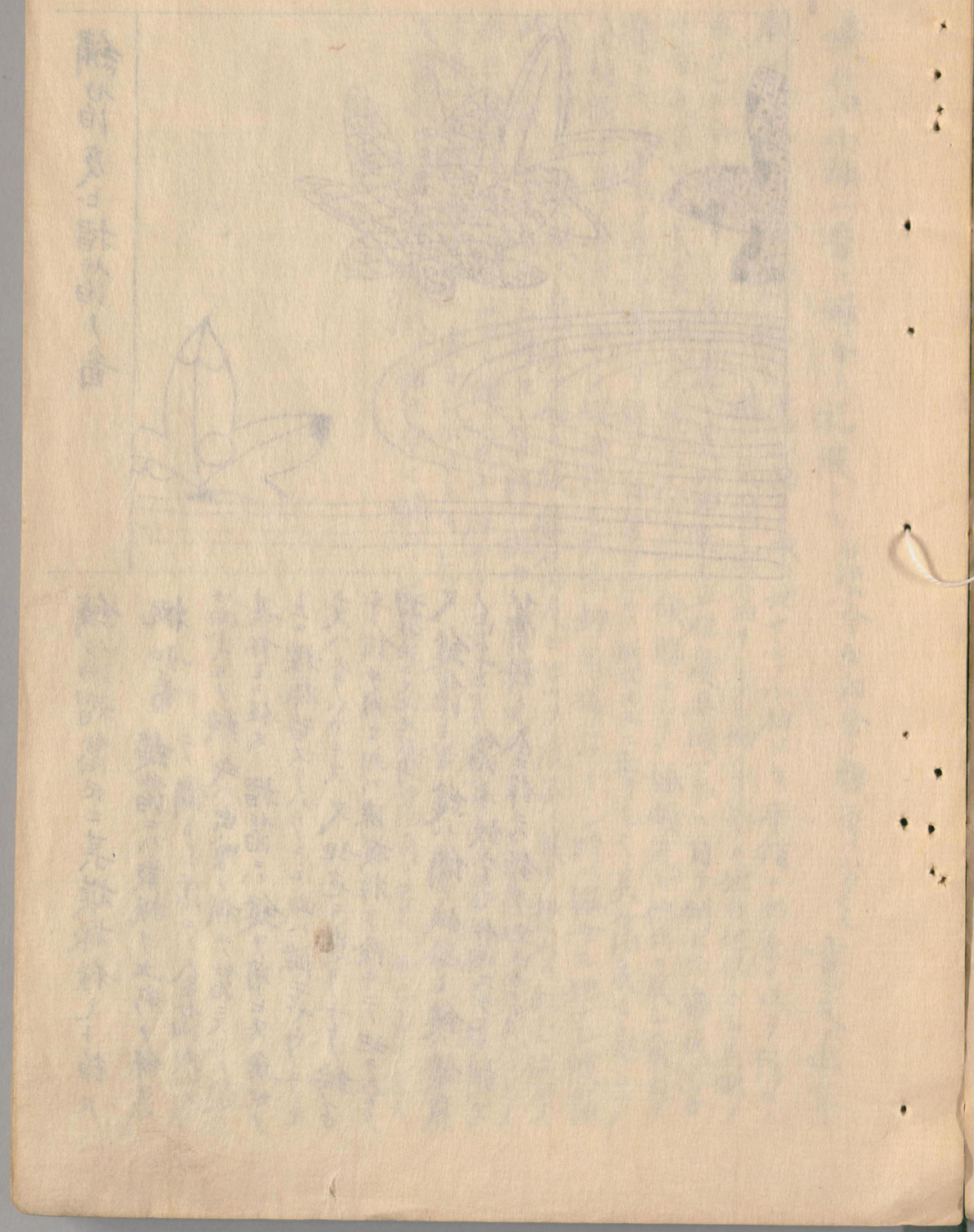
袴之裳

古今貴人ノ服ハ諸書ニ物ヒ故ニ其書ニ據テ學ベシ民間ノ服ハ據ニ可ラ書モ今ニノ愚按ニ京師繁昌ノ時ヨリ足利中世以前熾ンナル時ハ京民ヲ以テ奢ニ流レ風俗ヲ著ル者ハ下民ノ常ナリ然ニ今世ノ美ニ及ブヘカラズ故昇平後陣美服ヲ用ルハ我朝ニ古ヨリ然ル所

喪服

妻中喪ノ節見スルニ黒門前ニ拵裏ヲ搆ヘ翠簾ヲ掛ケ葬ノ前ノ夜ヨリ香ヲ焚ク此香ヲ焚ク節ハ死骸ヲ棺ニ納メ大振袖ヲ着セ左右ニ侍ラセ其中ニ坐ス時迄ノ節翠簾ヲ巻セテ香ヲ焚ク事三代ノ時代迄ハ下々町人等ヘハ時四ツ(午)ノ一ツ二ツ焼失後同モヤリ時代迄ハ下々町人等ヘハ時四ツ(午)ノ一ツ二ツ焼失後同モヤリ神君時代迄ハ下々町人等ヘハ時四ツ(午)ノ一ツ二ツ焼失後同モヤリ神君時代迄ハ下々町人等ヘハ時四ツ(午)ノ一ツ二ツ焼失後同モヤリ神君時代迄ハ下々町人等ヘハ雪ノ後天明ノ乱其外種々天災アリテ此節迄ハ下々町人等ヘハ不恐仕政事行届キ兼ルモ有ヤリ而已ニ非ス筒袖迄女房ノ名ノ限リ高下ノ身分ノ方ヘ有ヤト六條ナルヘシ畢竟下ニ身ノ分ヲ

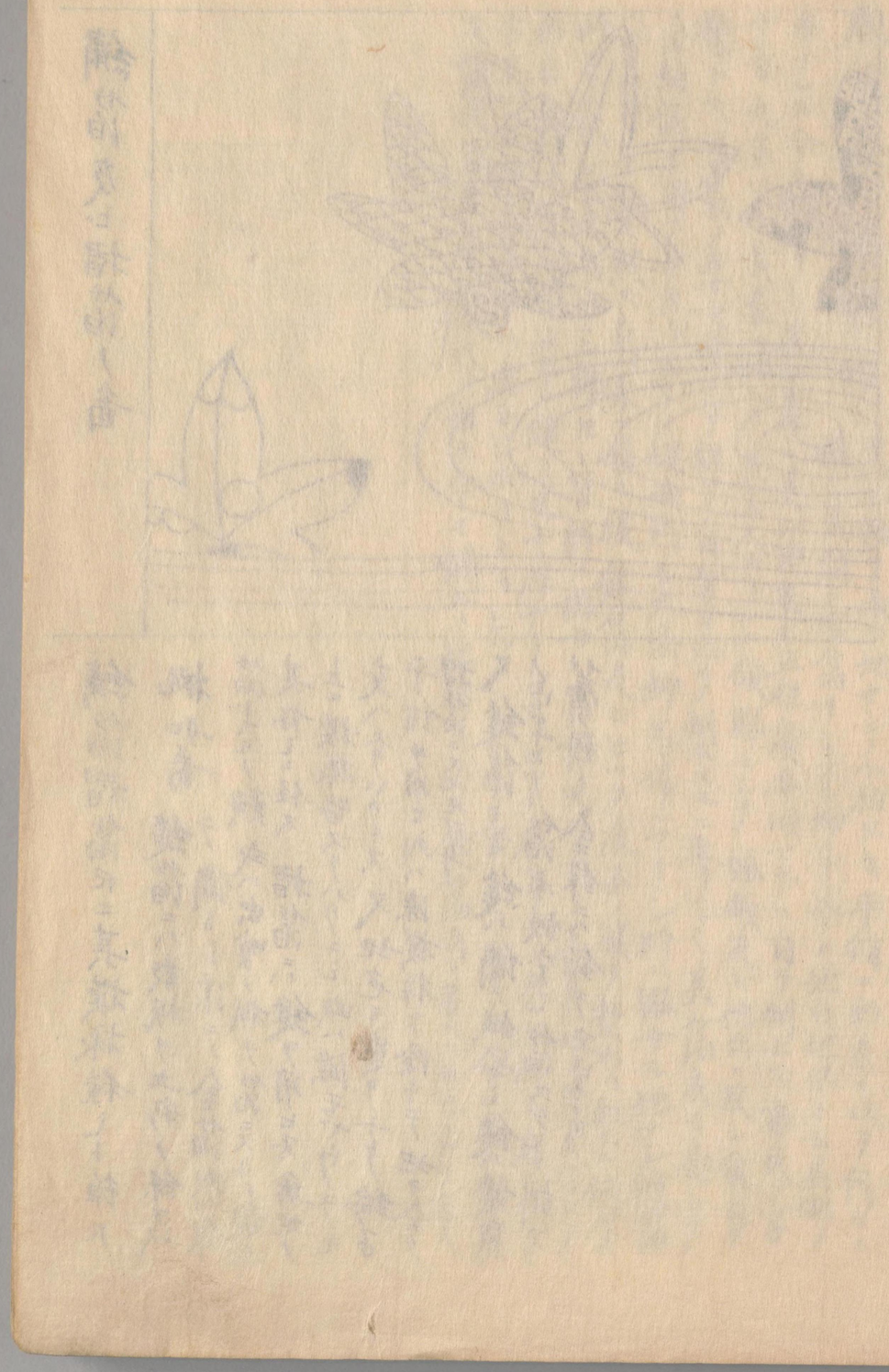
高壇
くくよはめのものべくべ。あるそのめ
はしきまりひ（下着し）（白）ろき小袖。（羽二重）（亀後し）や。中もも地のきそん
（鬱金黄色し）
そすくそんくそもくよするべ。ぬめのつ
ひくありてくくしいみくり。中くり（咸ノ意）（附着）（着し相着）
（三領ノ中衣し）
やくくそ。あるひいそめのめやくあくり
（自家勝手）
めはくふをそんそのくそそのそめやく
とんくとつけてそくまめべ
羽二重袁キヲ好ム十女今日ノ事蓋顔城ハ今世強気アル
ヲ主流トス其他ハ着セズ素ヨリ禁シ蓋近年京坂ノ女下着同着ニ白茶織後ヲ
着ルヲ流行セリ江戸ニ着ズ表衣ハ三都ニ更ニ着セズ
市中ノ女ハ下着同着或正白リニズ等シ上ニハ
都ニ更ニ衣服ニ用ルヲナシ緋リンヅノ顔ニ映スルヲ好トスルヲ古ノ人心素朴ナリ
今世ノ人ハ如此ヲヨ未熟トス縮緬ハ武家市中ニ
用ヒ縫アルモノシ地赤トヲシ ウニン下着等今世更ニ廃レテ誰カ用ヒ
ず。その人いぢこまるるれい。そのやくく
惟子ノ事（織糸ノ織し）そくひくい。こまるうのとくんとす
（唯地）
ふ。のりのこまそ。くぐだ
（下着）
まめくめ。ちくび。ちくまり。ちくまりをんとび。
（雲上ノ言忘）
びく。くるありてすくそあやくのるい
（書衣）
くずそのへいこそそでありてすまでりやく
そあのひてをまくそでとびくひくりり。
あれぢくれるあまをやまり。そのひ
のくくそし。よまるまで。そのいろくそ
（下着）
くまくまのそあるのそそくまりもるのそくまぐる
（他漆帽子ヲ可見トし）
（物而）
のこのくぐひまくそくひくと。ありせまるく
（袷）
そのまもくそ時いいとぢこ毎のまくそ
くあまりてきろふくんくんくん



ものある人をみるべきなり。いつまでも
女のひとりいるもあまりのことのようもあいくるる
あるまじきものなり。こころえをせんとすべし
麻布織糸ノホソキヲ好ミ十七今ノ日事ニ
干帷子表衣以上ニ領着スレ共帷子ノ衣服ニ
下着白ヲ好ム事ニ蓋今ノ下着ハ襦半ノ上ニアリ襦半ハ俳イリノメンヨリ又麻布
モアリ又帷子ヲ裏ナキニシテ袷ニスルヲ裏ニ無ヲ
ト云裏ヲ付ニシテ袷ニスルヲ裏ニ無ヲ
ト云黄羅羅ヲ裏ニツケル是ヲ二ツ小ト云シ今ハ
ヘツケズ紅ノ帷子等今ハ狂人モ不着
ヘ。

本名ニ殿ト云士民共ニ夫ヲ云婦ノ餝シ
女ノ餝ニ男ヲヲ指ヲ殿ヲ武殿方ト云シ　女鏡秘傳ハ万治二年ノ印本ニテ其時代ノ
士民ノ婦女ノコヲリ書時ヲ治ヲ外ニ
儀ヘ
其古凡ノ今モ武家ニ遣リ御殿女中ト大名女中ニ遣ヒシ陪臣武士ノ婦女ハ更ニ古凡ヲ
失ニテ坊間ト共ニ時様ニ押従リ
民間ハ古凡更ニ失テ時々ノ流布ニ走リ今ハ御殿女中ト坊間ノ婦女ト其凡ヘ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



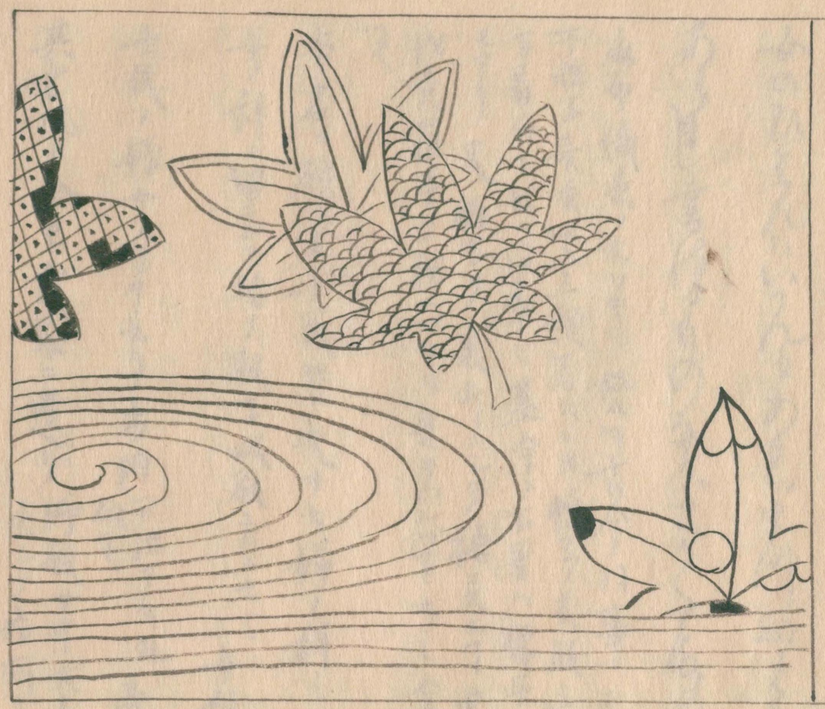
ものある人をみるべきなり。いつまでも
女のひとりいいうんもあまり。まりおとこ
あるまじきものなり。こゝらのところをせんとすべし

麻布織糸ノホソキヲ好ム十六今ハ更ニ無クテハ
不可ナル表衣以上ニ頌着スレ共下着白ヲ好ム事ニ蓋今ノ下着ハ襦半ノ上ニアリ襦半ハ俳ヰリメン等ニ又麻布
モアリ又帷子ヲ裏ナシニシテ袷ニスルヲ更ニ無クテ高坂稀ニ裕ノ周リニ三寸バカリ
浅黄ノ羅等ヲ裾ニツケル是ヲヨシトセリ今ハ全体ニヘツケズ紅ノ帷子等今ハ狂人モ不着
ゝゝ

本名ニ殿トセ士民ニハ夫ヲセ婦ノ餝シ大名等ノ殿トセト其意異シ今モ上京
女ノ餝ニ男ヲヲ指ヲ殿ヲ武殿方トセシ 女鏡秘傳ハ万治二年ノ印本ニテ其時代ノ 扱ハ婦

士民ノ婦女ノコヲセリ当時戸沿ヲセ外 儀々
其古凡ノ今モ武家ニ遺リ御殿女中大名女中ニ遺レシ陪臣武士ノ婦女ハ更ニ古凡ヲ
失ヒテ坊間ト云ニ時様ニ押従セリ
民間ハ古凡更ニ失テ時々ノ流布ニ走リ今ハ御殿女中ト坊間ノ婦女ト其区

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



繍箔及ビ摺箔ノ畨

繍箔摺箔ヲ二其模様種シト雖モ概ネ如畨縫箔ニハ散枫ヲ立彩ノ絲ヲ以テ繍トシ浪ヲ金箔或ハ銀箔トスルノ類或ハ虫喰ノ枫ヲ箔ニスルノ類シ其好ミニ任ス摺箔ハ縫ヲ用ヒズ魯地ノ上ニ模様皆スリハリニシ或ハ漆モヤウヲモ交ヘスリハクニス又地色モ定リナリ綸子平絽ヲ用ヒ或ハ漆模様ヲ除キテ地ヲ全ク摺箔ニスルモアリ

又縫箔トハ繍ノ假字シ縫ハ縫裁ノ心ナリ箔亦假字シ箔スタルト訓ス簾ノ類シ金銀ヲ鉑ヲ正字ナリ

縫箔小袖ハ昔ノ婦女ノ礼服トス箔小袖ヲ始メ縫ニ其間ニ摺箔ヲ二ミタル物ニテ今ノ地白地赤トハ其制ノ本十七ヒ今ノ制ヨリハ甚タ麁シ其箔衣モ正保慶安頃マデハ自ラ制セズ市民ノ子女等大名以下武家ニ仕ヘテ其主人ヨリ二領賜ヒシヲ驚カス富家ノ妻女等コレヲ観テノ自費ヲ以テ金絲繍ヲ用フルニ至ル京ノ傾城町モ八条柳馬場ニアリシ時ハ遊女モ地ナシ縫箔ハリ箔ノ小袖ヲ服ス島原ニ移ル後縫箔ヲ禁止スル旨ノ令ニテ今ハ三都ヒ官許ノ游女ハ時ヨリ欤肥ニテ今ハ羅紗ノ天鵞絨ノ上ニ其地ノ見ヘヌ程彩糸金絲ヲ以テ繍ス昔ノ縫ハ凡十倍ナリ古名四ツ目結トモ辻手ハ鹿子ニボリトモヒツタハ鹿子ト云ハ全ク同ジ又箔衣モ全ク廃シ手久ト雖ヒ今モ繍工ノ招牌ニハ必ス縫箔司ト書スル所モ古ヲ存ス

寛文ノ末年ヨリ

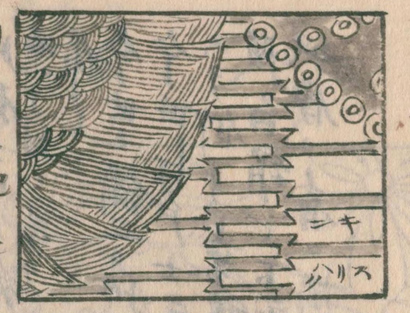
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

子里ノ連トナルし　蓋京坂モ市民時々流行妻萍アルト雖ド
古見存スルアルヿ江戸ニ倣レリ　江戸ハ八九十年来特ニ
古見ヲ失ヘリ
書云寛文迄ハ地白繻子ノ腹ニ
官命アリテ禁止セラレ雖ド又陣
天和貞享ニハ衣服多ザル者モ地ナシ
又昔々物語ヲ見ルニハ日時用ル
小袖ハ鉛小袖ヲ用ヒテ礼服トス
用ニハ鉛小袖ヲ始テ流布ス
帳殿女中ハ繻入ヲ着スレド金糸ノ繻ヲ始テ許設寛文ヨリ
惣テ用ル事ナリ　又見婢ヲ不用ニ非ズ　金糸ノ繻ヲ不用ニ
繻し
今世モ繻工ノ把牌ニハ帳縫箔師ナドゝ云ヘリ
今世江戸士民ニ産ル者ニハ白ニ紫紋ヲ銀箔押ニ製
スヲ例トス　寛政ニハ繻し其他ニ鉛摺ヲ更ニ用ヒズ　江戸産服ニハ表
服白絹し下着ハ茶絹桃色絹黄
奴僕ノ着ニ掛摺ヲ施トスルノミニ
実用ニ着セズ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

摺箔古裁し



是ハ式人ノ所蔵セル古表具ニ用ヒシ古箔小袖裁シ地色紫ノ所ト浅葱ノ所トアリ鶴亀ノ丈模様ハ彩糸ノ縫ト絞リトヲ交ヘ又ハ麻葉形ノ鹿子絞リヲ交ヘ又ハ其間ハ一面ニ雨ノ如リ矢筈形ニ摺箔ニシタリ昔々物語ニハ六七十年以前ハ女中地ナシト云ヒ小袖ハ総ベテ摺箔ハズニ持タズハナシト人ヲ仕フホドノ女中ハ上着小袖数ハ摺ハズニ持タズハナシト人ヲ仕フホドノ女中ハ上松川菱ノヤウニ箔置タル小袖ヲ金箔ニテ一面ニ男ノ袴ニ斗目着ル時ハ地ナシニ六七十年前ヨリ其比迄ハ針妙ハ被衣セヌヲ恥トセシ程ニ上下トモニ松川菱ト云ハレシ程ニ箔置タリ又ハ異ナル模様ヲ置タリ又ハ異ナル模様ヲ置タリ又昔ハ摺箔ト云ヒ今ハ印金ノ如シ

コレヨリ二枚前ニモドル

因ニ無地ムジトヨメル時ハ何色ニテモ全体一色ニテ更ニ紋又模様ノ有ヌヲ地ヲ摺箔ト云ヒ今ハ地ナシト云ヒ女ノ祝言事又ハ正月晃角ノ外ハ地ナシヲ嫌ヒ又ハ異ナル模様ノ有ヲ嫌ヒ又ハ延宝ヲ指スナド云ヒ況スベカラズ

天和三年ノ官令ニ曰 金紗 縫 惣鹿子 右ノ品々向後女ノ衣類制禁ス可ク惣テ珍シキ織物新規ニ仕出シ高直ニ売買仕マジキ事二百目ヨリ高直ニ売買仕マジキ事百姓町人ノ衣類絹紬木綿麻布此内ヲ以テ分限ニ応シ専ラ用スベキ事

乗々申乗右ノ断但従前勤ル帯ハ禁ニ不苦事

惣ニ下女端下女布木綿着用スベキ事

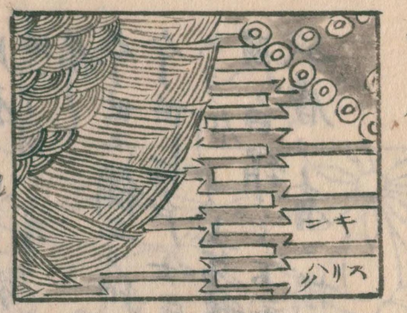
元禄二年ノ官令曰女ノ衣類縫模様禁制ヲ仰セ出サレ向後縫結描無之ヤウニ仕立銀二百五十目ニ限リ縫ノ衣類売買スベカラス尤スソイノ類ノ美麗ナル気仕立リハ不苦事

享保六年ノ官令曰女ノ衣類自今ス後小袖表一ツニ付即用ノ物ハ其代銀五百目ヲ限リ五石以上ノ者ハ四百目ヲ限リ縫ノ衣類ハ二百目ヲ限リ夫ヨリ高直ノ物切売買スベカラス事 但女帯ノ類ハ其外何物ニ限ラズ此例ニ准ズ 延享元年ノ令曰婦人ノ衣類金銀等入レテモ小袖表一ツニ付代銀三百目深模様ノ袖ニ付百五十目限リ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

摺箔古裁し



是ハ弐人ノ所蔵せし古表具ニ用ヒし古箔小袖裁し地色紫ノ所ト浅葱ノ所トアり鶴亀ノ形摸様ハ彩糸ノ縫ト絞りトヲ交へ又ハ麻葉形ノ鹿子絞りヲ交ハ其間ハ一面ニ雨ノ如り夫等形ニ摺箔ニ多り昔々物語ニ六七十年以前ハ中地ナシト云小袖ハ胴ハズ尼特ナル人ヲ仕フホドノ女中ハ上着小袖数ハ胴ハズ尼特タヌハナシ人ヲ仕フホドノ女中ハ上松川菱ノやうニ箔置ヲ小袖ニハモッ惣而ヲ金箔ニ一面ニ用ヒし古箔小袖裁し地色紫ノ所ト浅葱ノ所トアり鶴亀ノ形摸様ハ彩糸ノ縫ト絞りトヲ交へ又ハ麻葉形ノ鹿子絞りヲ交ハ其間ハ一面ニ雨ノ如り夫等形ニ摺箔ニ多り昔々物語ニ六七十年以前ハ中地ナシト云小袖ハ胴ハズ尼特タヌハナシ

昔ノ御殿女中之掟事跡合考曰　神君御隠居ノ後ナド
御入遊サレ候時御自身ハ浅葱深ノ
袷羽折ニ薫真苧ノ御帯ヲ
御下ケ遊サレ候御供ノ女中ハ花色深ノ立波ニ汐汲桐ナド裾脇
ニカケテ白クヌケタル茜深ノ木綿一裡有タルヲ
三ツ人手拭ヲ頂ヨリ腮ニ巻カヘシ
タルガ同袴ニテ三人通リシヲ目前ニ見タリシ由申名老サニ聞シ
ト也サレ　神君ハ　紫康公ヨリ
木綿裏トアレバ表モ木綿ナルベシ
ルベケレド　今ハ下輩ノ女中ニテモ旅中ニ綿服ヲ着ズヘキヤ且
馬ナドニ乗ラナク皆乗物ヲ用ヒラレシトゾ又　神君ノ召サセラレシトゾ
小倉羽折ハ　迫年雇夫ナド小民ノ用トナリテ夫モ今ハ廃レシノ
草羽折ヲ着スル古ノ質素想像スベキナリ

今世御殿女中惣模様衣服畫　今俗武家ノ勝婦ヲ指ヲ御殿女中トス本ハ
女房トキシ今ハ妻ヲ女房トス
如此文字多ク慶ヨリ以下専ラ服ヲ記ヲ詳ス
等上輩ノ服ヲ等ヨリ以下専ラ服ヲ記ヲ詳ス

等皆役トスハ女ノ和事
職ノ名ナリ

或曰此文字多クハ小禄
大名ノ家ノミ用ヒ
幕府及ビ大藩大名ハ
不用ト云ヒ市井ノ野ト云ヘリ

裡紅紬吹二寸ヨリ
市井ヨリフキ多クス

地綸子アリ　縮面アリ　縮メンヲ帛紗モヤウトス深色
緋白黒ヒワ茶等種々アリ深模様ノ上ニ慶事ノ文ハ多シ
金糸彩糸ノ繍ヲ交ハス

同上

文字多ク上袋ヲ掛ケサルノ惣模様ト漆色目前ニ
赤漆模様ニ金糸彩糸ノ繍ヲ交ヘ御衣ヲ又唐子ヲ交ヘタルモアリ

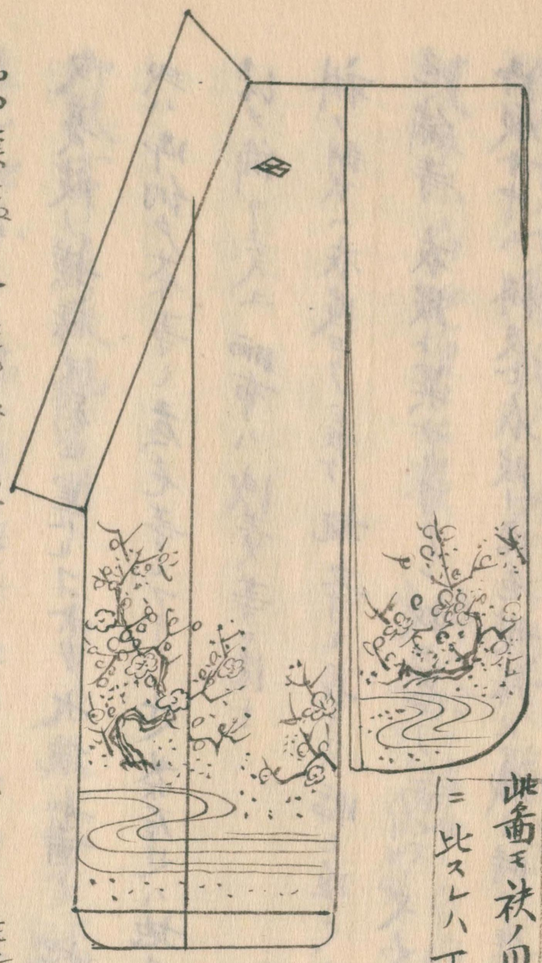
同腰模様ノ畫

中模様ハ模様腰ヨリ高ノ両袖ニモカヽリ畫略ス

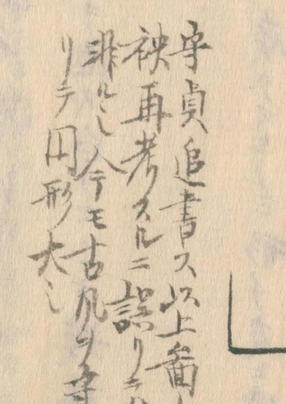
其制日前
振袖ニ非ル物ハ丈ズハソクチヲアケズ故ニ
中民ヨリ少ク袖ヲ短スベシ

以上二畫ノ袂形誤リ
今世四形ノ惣體ニ比セハ
大形ニシ今僅ニ四形ヲ
減テ可シ蓋今世ノ帳
殿ノ袂民間ノ制ヨリ
大四シ

同裾模様ノ畫



此畫ヲ袂ノ四形大ニシテ誤リ惣體ニ比スレハ下畫ノ如シ



享貞追書ス以上畫ノ袂再考スルニ誤リニハ非ラシ今モ古風ノ寺
リテ四形大シ

惣模様　中模様　腰モヤウ　裾模様
腰モヤウ　無記号裾模様　等尊ラ職ヨリ時ニ
定制アリ　蓋惣モヤウヨトハシ中模様ヲ次トシ腰ヲ次トス

漆模様ニ金糸彩糸ノ繍アリ　裾模様詰袖ノ惣モ概如畫　惣模様ハ
詰号(モシクハキ)有無模様　無記号ノ
腰モヤウ無記号裾模様ニ應テ差別アリ又彙ノ
惣模様以下皆

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

下振袖ノ物ヲ同ク裡ハ赤ノ緋羽二重又ト紅紬ノモ表ハ綸子ヨリ上ト縮
緬ヲ次トス是亦職ト時ニ應テ差別ス又模様種々無窮大概画ノ
如ノ類シ又真綿ニ精粗アリ又無模様定紋ノニテ深ルモハ綸子ヲ不用
紋尊ク縮緬ヲ又是ニ黒紫茶シ赤ト白茶茶ニ深ズ
又裏腋ノ模様モ別ニ異ルコトナリ大概画シ地色紹ハ浅黄ハヲ専トス
弐ハ帛納戸茶茶ヒ度色茶モアリ辻茶屋辻ハ地ヲ深ズ白ノマヽニテ模様ヲ
深メ綿コトヘ入ル晒布ハ浅黄茶ニ深ル
袴ノ制ヘ衣腋ヨリ長ケ概五寸モ長クスル幅モ准々廣クスルノニ形チ又ト深
色綿等衣腋ト異ナルコトナシ故ニ暑ヲ画セズ又モス紅裡シコウウラトモ
御殿女中ハ袴及ビ衣腋ノ深色模様共ニ職ト時ニ應テ年齢ヲ擇ハス老婦
モ東ヲ莫ナル物ヲ用フ

御殿女中ノ下着ハ赤ヲス白綸子ノ頸ニ頸時ニ應ス袷ニモ下襲白綸シ蓋
綿入ノ下ハ下着モ綿入シ袷ニハ下モ袷シ綿入袷ニモ表裡白綸シ胴裡ニハ紅
夏衣ニハ白晒布ノ下襲シ綿入袷ニ帛女ハ白綸子白チリメンヲ用ト夏
衣ノ下着白羅ヲ用フルハ賤シ

御殿女中衣服概着用ハ元日地真綸子二日吉綸子色不定、晝後
上巳地赤、端午深帷子、七夕ト、ハ朔ハ白ヲホース、帷子ハ白チリメンノ衣服
座辻下輩晒布、茶ヲ辻ハ辻ノ赤モアリ、中以下茶、上輩辻、中以下茶
菱ノ腰業ヲニ周リ丸如此シ
重陽地白、家当リ定制不明アル故、余頃日ヲ由

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

又袖ニハ五蔀ヒ空ル色ナニテ

帷子中襦半ハ小千舟ノニ緋紫縮細ノ類シ又袷シ襟ハ必白絹シ
袖半幅ニスルシ袖口ヨリ襦半ノ見エヲ非礼ト、前ヲ如リ
裏ハ白晒布ノ襟シ湯巻ニモ用ユアリ

茶屋染昔ハ芦手摸様トテ藍ハ我見テモ久シク十リ又住吉ノ岸ノ姫松幾世経ヌレントテ歌ヲ歌繪ニスルニ我見テモ久シク十リ又岸ノ姫松幾世ヘヌレントテ文字ヲカキ住吉ノ神社ト松ヲ間ニ重リノ類シ間々ニ鹿ヲヨセ又辻ト云モ別品ニハ非ル故今ハ染名ニ非スシテ布名ノ如リニ十リ又

辻及ビ茶屋辻染ハ奈良晒ヲ本トス亦地ヲ専ラ越後縮ヲモ用ユ専ラ地白十リ
黒モアリ又黒ニ卵カ赤茶タルアリ 京濃紫紋辻ト茶屋辻ハ殊ニ差アリ

辻染雑ノ画 前婦所持奈良晒地白染摸様ニ鹿ノ子ト彩糸金糸ノ繍ヲ交ヘタリ 紋ハ皆異ナルト雖モ染凡大約如此シ

追考 茶屋辻今ハ晒布ノ惣モヤウナシ

辻及ビ茶屋辻ハ夏ノ礼服シ其次ハ奈良晒及ビ越後縮ノ染摸様或ハ繍ヲ交ヘ又ハ縫ニ羅紗シ摸様 腰腹及ビ上輩森岐ハ 裁高屋縮ヲ用ユスキ中縞ハ専ラ縞シ下輩ハ麻後縮ノ縞ヲ用ユ白地ニ絣縞或ハ白地ニ絣ヲ交リもうべ白地ナル物ヲ専用ユ

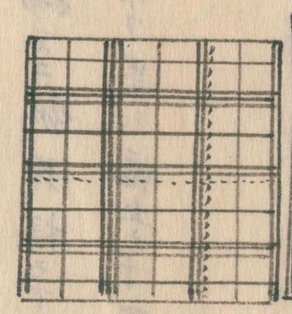
茶屋染ノ昔ノ芦手摸様シ歌人昔ヲ文字ト更ヲ文ハ摸様ニ染ヲト或人ノ

前番ノ如ク定紋ト模様トアル物ヲ異語ニ紋裕ト云
定紋アルヲ略トス　礼服袴等ノ模様ナルモ定紋記号ナキヲ礼服ノ本トス

武家ノ勝婢ノ略服　弐下婢ノ端下女シ　今俗婦来ト云ヒ又上臈ノ仕ノ階婢等ノ類シ

晴服ニ番ノ如キ白地ニ絣ト紫ノ縞ニカスリ交ヘタルヲ専用ス　縞縮緬シ　番再出

又茶地（黄ガチ茶）ニ絣ノ格子弐八経縞ノ八丈織ヲ専用ス　右二品モ紅緒袢シ



番ノ如キ縞縮緬江戸武家女ノ着用ニシテ都ニ市中女ハ不着　尚京坂ノ娼妓ハ着ケリ娼妓ハ不用ヒ

南海八丈島ニ所製ノ地色茶シ他色ヲ縞シ其席居彼島ノニアリテ他所ニ除クヘカラヲ得ス

三都ニ市中婦女不用ヒ士医ハ用ユ其他男ハ不用ヒ縞形種々アリ

右二番ノ縮緬八丈ニ市民ノ男女不用ヒ又席殿女ハ略服及ヒ掛襟モ不

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

御殿女ハ前云如ク下着ハ白平絹ヲ二重加賀絹ノ類シ襦半モ胴袖ハ緋縮
細亦他モ用ユレ共襠ハ必ス平絹ノ白シ袖半幅ヲ用ヒ袖ヨリ襦半ノ見エルヲ
非礼トス
又半身シ長襦半トテヲ用ヒズ又湯具モ必ス白絹シ下袴平日ハ白毛綿
是亦膝ヲ下サス長クシテヲ見エルヲ非礼トス
帯ハ錦紋ノ類或ハ黒繻子ニ繍摸様モアリ長サ丈シ幅市中女帯ヨリ
聊短シ概七八寸位 褄ノ下ニ用ヒ帯ハ幅五寸ヨリ三寸迄ノ間ニ
二三花三四葉ヲ大サ五六寸ノ散模シ

又袷及ビ帷子ノ時襦袢ニハ付帯ヲ用ヒ
略服ニハ不用ヒ

付帯ノ画
一名下ケ帯トモ

錦ノ心ヲシ平結ニテ両端ヲ錦ノ所ニハ
裏紙心ヲ納レテ筒ニスルシ背ニ結ビ
付帯ニハ掛ヲ着ズ今世両端ノ垂ヌルヲ
良トスト雖モ帯ノ名虚名ナレ共今事ヲ
下ケ帯トモ

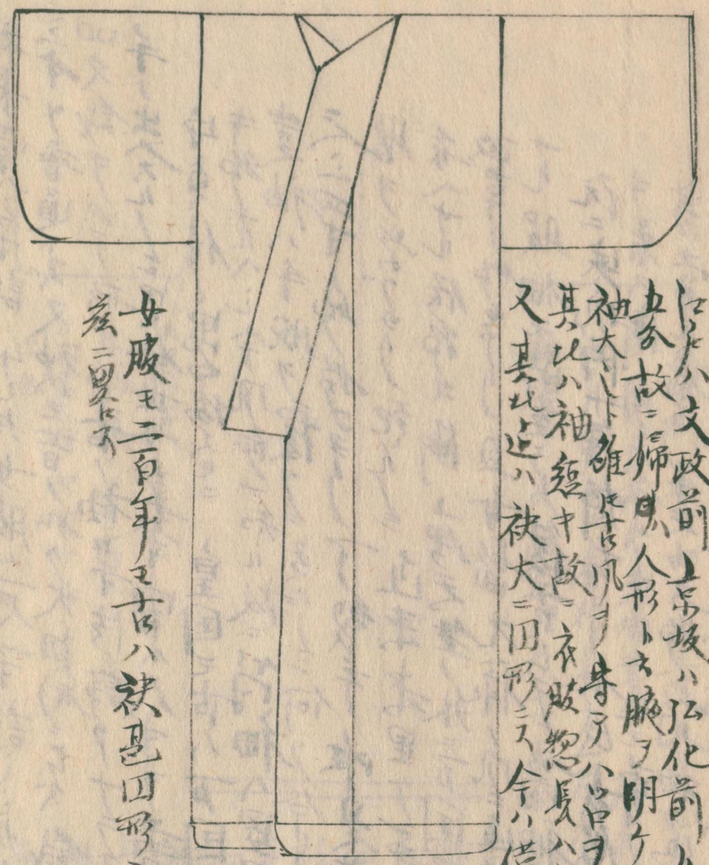
付帯名天文永禄
ノ頃有ケル
寛永ノ付帯幅僅ニ
八分
今製ハ概ネ寸シ
寛永ノ大帯ヨリ廣シ

立樹摸様 梅櫻菊数種アリ一樹ヲ以テ
額ヲ後目見ヲ画クベシ

嫡所女中ハ専用ヒト雖モ武家ヲ嫁ニ名ニ其上輩ノ女房ノ
及ビ従居トモ 将軍ノ息女ノ大名ニ嫁ニ名ニ
用ヒ国司以下諸大名ハ室息女ノ外ハ着ヒヲヲ得ベシ又腰
巻ヲモ後用ユベシ扱腰巻ハ古ノ小袖ノ遺風歟

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

中古ノ婦女衣服裁縫尺ヲ用ユ

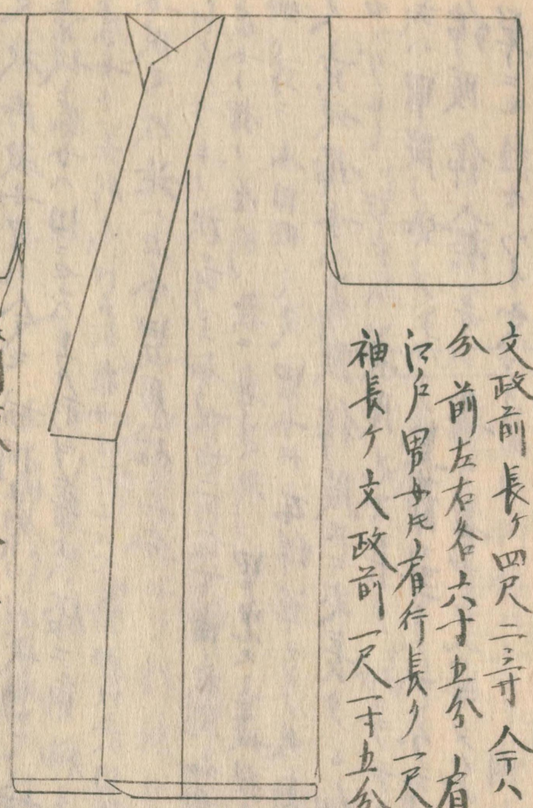


江戸ハ文政前ノ高坂ハ仏化前ノ女袖大暑一尺一寸弐八一寸
ナル故ニ婦人形ト古服ヲ照ラシ明ケズ今モ江戸師匠ノ中ニ
袖大ニシテ雖尺ヲ用ルモノ多シ
其比ハ袖短キ故ニ衣服惣長ハ今ヨリ明ケズ
又其比ハ袂大ニ四形ニシテ今ハ倍ニ四形ニシ長キナリ

女服モ二百年ヲ古ハ袂丑四形ニ男服ノ古爺ト同キ故

男服ノ船ガニ衣服古制ノ画ヲ我メリ其寸尺詳カナラズト雖モ
袖口甚タホシク袂モ大四形クシテ今ノ如ク前ニ合ハス
袖長壱尺ヲ許セシガ元年男女服共ニ尺
三寸ヲ普通トス又袂モ昔ノ如ク大四形ニナク
四文銭ヲ以テ形ク古ノ袖口寸法ヲ定メ
千ノ出ズルニ至リ今世女ハ七寸男ハ八寸ヲ普通トス
守貞僧ク男ヲ掬スルニ皇国モ古ハ下国ト同ク今ヲ筒袖ニ通
キ物ナルベシ今凡而ニ和服ニ故ニ筒袖ハ異国ノ凡トニ同カラズ
豈袖ハ手腕ヲ覆フノ具ルノミニ何ノ今ノ如ク袖口ヲ袖長ヲ
ニ四寸ノ如クナリテ了製ニ至ルヤ唯是芳ノ劇場ノ壽光
服ヲ学ビヨリ起ルノミ 近来未里ニ帰リ地球ノ事ヲ他ニ
ヲ以ヘサル俗物ヲ衒ヒ 虚天笠ノ
改革ノ物ヲヨリ且女髷元祿ノ凡ニ近リ後古ニ
ナル服袖モ時至ラハ復古ニ 又諸侯ノ
院ニ実ル時十年斯前ヨリ衣服ノ下ニ審ニ筒袖ノ半服
ヲ着ノ御風ニ今ハ中ハ上迄モ東ノ用ニモ大増日々倹更
等ニ着ノ子夫ヨリ三都ノ婦人筒袖ノ外ニ凡ノ大袖ニ
袂方形ニ広キ物ヲ先ノ袂ノ端ヨリ三尺外ニ破レ垂ルヽ
ノヨウナル一枚ヲ

今世婦女衣服裁縫画 十尺鯨尺ヲ用ヲ衣服男女尺ニ倣ヒ
又大概中人ノ用ヲ大小准ズベシ



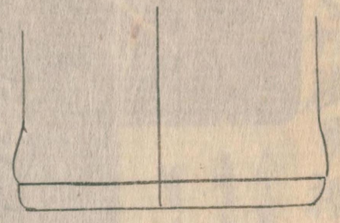
文政前長ケ四尺二寸許 今ハ四尺 身幅背左右各七寸五
分 前左右各六寸五分 肩行一尺 袖長ケ一尺一寸五分
汀戸男女尺有行長ケ一尺六寸五分 袂口一尺一寸五分
袖長ケ文政前一尺 今ハ一尺二寸五分 弐八三寸ニ
今制袖長ケ舟長ケ短シ 袂口空七寸五分 袂文化前
大四茶碗ヲ印ノ縫ヒ 今ハ小四小銭ヲ縫ヒトス
社ハ襟端所ニ寸五分 褄ニ寸四寸 襟有ノ所上斜ニ
細シ 襟幅二寸六七分 襟長ケ五尺許 襟形
襟幅二寸六七分ニ折ル時ハ幅ニ寸ニ
着スレハ吹先手下五六分 今ハ礼
晴用一寸五分 畳褄一寸

文政中女袖口ヲ狭ク
男ハ今ヲ常トス

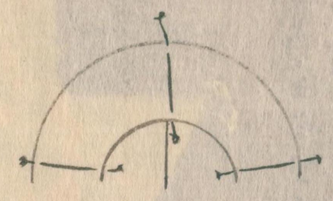
世間服 京坂ニ人形ト云
本俗服ニ学ビ製スル名
江戸ニテヤワラケト云ハ
口也

安政文久ニ至リテハ
江戸婦人袖ノ
長ケ大概一尺ニ
昔ノ振袖ニ等シ

肩衣ハ正背ノ襟ヨリ褄ニ至ルまで吹トハ裡ノ表ヨリ長リ下ニ出ルまでし
脇アケ俗ニ人形ハクリ古来ハ不空ざく折山ハ古製ニ脇ハ故ニ闕腋ナラザレバ
廣ナラズ迫事袖基メ廣リ帯赤
着し事ナラズ也リト雖ド御殿女中ハ今モ先ノ如
坊間東ニ於テ其空文化文政中ニ
すり空ハ即闕脇し
又袖ト古製ニ襟トさ今世ハすべて袖ト身ハすべて和朝ノ制ニ合ヒ女服未合ず
又袂御殿女中ハ今モ坊間ノ製ヨリ大
袁坂處女ハ四ニセズ上方形ヲ専ト俗ニ
處女ト一差別ス江戸ハ雅女ナニシテ下角袖ハ上ハ四形し
女服之吹袷ハ五分男用袷ニ合
江戸少女ノ袂ハ袂ヒノ廣袖ヲ専トスル又
處女ト婬ノ差別袂ニ無定制男児之袁坂往々角袖ニ振リ
物ハ専ラ小四形し又男女共本綿單衣ノ外裏ハ制外し
又袁坂婦女ハ美服綿服ニ丈長クシ細帯ヲ以テ腰周リニコレヲ
ルヘグルしト江戸ハ美服メズ長リ腰ニテナゲ置服ニ至リテハ或ハ長ク
或ハ男服ノ如ク着テ黒帯ニ至リヤハゲズニテ着ス是ヲ着丈トおし
綿服綿ハ袷著ハ専ラ長ナラズキメケし着丈ヲ俗ニツイタケトス
単ニモ往々ツイ丈アリ



男女共ニ縫製ハ直ナル氏裾周リニハ金襴ヨリ綿ヲ
納レテ多クハ綿ヲ入レ他ニ二十倍ハ
多クスル仁他ニ二十倍ハ
蓋民間婦ハ女ヨリ減シ吹モ雉ヘニテ減セリ
御殿女中ハ袁坂婦女ハ倉卒ヨリ薄ク蓋近年ハ裾
前ヨリ多ク納ク



今世江戸ノ婦女襟ノ頸辺ニ一折或ハ三折黒大糸
ヨリテ上下ヨリ刺縫ヒ両端ヲ結止メ筒ニ納メ蓋ノミハ襟ヲ折ズ被ク着スニ臨テ二ツニ折ク
右ノ糸ヲ引トメ結ヒテ襟ノ折目襟ノ被カサル仁備ヘリ袁坂来設ク如此小事不誌ト雖ド
人モアラン乎ナレ氏余ハ小事ノ巨ヒニテノ歎ス大事ノ
諸君モ我ズベシ蓋用ヒテ江戸近世ノミし

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

今世三都之婦禮用裙模様ノ画

今世三都ニ婦ノ礼服黒宝紋有ヲ事ニ又裙模様ヲ専ト三模様ハ細密ヲ事ト画ノ如リ裾周リニ描ク大略高サ二寸ニ昔ハ二寸ニ又礼服宝紋有ル事ニ三都ニ江戸ニ裡ニ模様ヲ染ル事ヲ専ト江戸モ如此ニ裏ヲ裡ニ染ル事ニ候中ハ模様服ニモ無ラズ紅裡ヲ用ル

守貞之今世ノ女服ニ三都ニ縮緬ヲ専用トスルニ男子モ稀ニハ用ルノミ縮緬ノ名古ヲ引キ有ルモ清水臨時祭ノ舞人ノ装束ニ摺袴ヲ服ス陣加茂又日条使ノ装束ニ着有文下襲縮緬綾袴等ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

京坂ノ娼妓ハ五寸七寸ノ物モアリ蓋婦用ハ専ラ白ク細密ニ染ノニ黒ク他色ヲ用ヒズ京ハ文様ヲ描ニスルモアリ本トスレバ式ハ上繪トセラレ表ヨリ著ク江戸ハ全ク無地ニ有ラズ又帯ハ大模様ナリト雖モ自ラ帯ノ幅ヲ狭クシテ京坂ノ娼妓モ大模様ナリト雖モ自ラ帯ノ幅ヲ狭クシテ昔ハ大ニ異シ今ハ少シ異シニ過ト武家勝ト娼妓ト大異シ昔ハ大ニ異シニ又婦女ヨリ婦ハ細ニ婦ヨリ老婦ハ微ニ式ハ裡模様トセラレアリテ表ハ無地ニ裕無地ニ式ハ表裡無地ニテ時ト用ト娼ニ據テ差別アリ其大異ハ如此ノ上着ト下馬トハラリニテ處女ト老婦ハ移テ然ラズ又坊間ハ実際ト雖モ今製ハ處女結褶箱褄ヲ衣服ニ用ヒズ唯京坂ハ傾城ハ傾城ト雖モ褄ヲ用ヒズ京坂ノ娼妓ハ用ヒズ褄ヲ用ヒズ江戸ハ娼妓ハ用ヒズ又坊間ニ處女ハ前垂ノ如キ量裳ヲ曙染用ヒズ

式書ニ婦人裏模様及横褄ノ始ハ寛暦明和ノ比ト雖モ祖尾上菊五郎ト役者アリケレ此妻ニ於為トセラレ頼ヲタチ世ニ勝タル美ヲシ心バヘモ無ナラズ貞節無類ノ婦ナリシカバ右ノ褄ニツトハケアリシガ此ヲ聞ク婦女ヨリ五尺褄箔ヲ用ヒズ

又坊間ニ實際ト雖モ今製ハ處女結褶箱褄ヲ衣服ニ用ヒズ唯京坂ハ傾城ハ傾城ト雖モ褄ヲ用ヒズ京坂ノ娼妓ハ用ヒズ褄ヲ用ヒズ江戸ハ娼妓ハ用ヒズ又坊間ニ處女ハ前垂ノ如キ量裳ヲ曙染用ヒズ

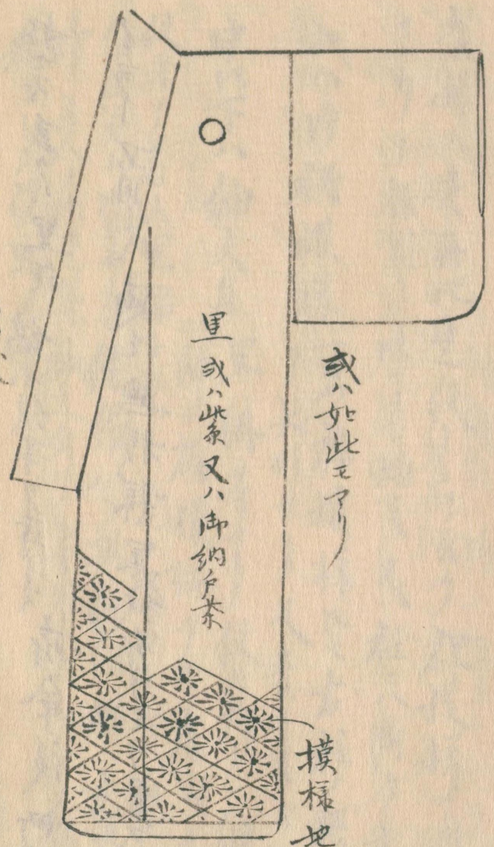
又坊間ニ實際ト雖モ今製ハ處女結褶箱褄ヲ衣服ニ用ヒズ唯京坂ハ傾城ハ傾城ト雖モ褄ヲ用ヒズ京坂ノ娼妓ハ用ヒズ褄ヲ用ヒズ江戸ハ娼妓ハ用ヒズ又坊間ニ處女ハ前垂ノ如キ量裳ヲ曙染用ヒズ

式書ニ婦人裏模様及横褄ノ始ハ寛暦明和ノ比ト雖モ祖尾上菊五郎ト役者アリケレ此妻ニ於為トセラレ頼ヲタチ世ニ勝タル美ヲシ心バヘモ無ナラズ貞節無類ノ婦ナリシカバ右ノ褄ニツトハケアリシガ此ヲ聞ク婦女ヨリ五尺褄箔ヲ用ヒズ

又坊間ニ實際ト雖モ今製ハ處女結褶箱褄ヲ衣服ニ用ヒズ唯京坂ハ傾城ハ傾城ト雖モ褄ヲ用ヒズ京坂ノ娼妓ハ用ヒズ褄ヲ用ヒズ江戸ハ娼妓ハ用ヒズ又坊間ニ處女ハ前垂ノ如キ量裳ヲ曙染用ヒズ

式書ニ婦人裏模様及横褄ノ始ハ寛暦明和ノ比ト雖モ祖尾上菊五郎ト役者アリケレ此妻ニ於為トセラレ頼ヲタチ世ニ勝タル美ヲシ心バヘモ無ナラズ貞節無類ノ婦ナリシカバ右ノ褄ニツトハケアリシガ此ヲ聞ク婦女ヨリ五尺褄箔ヲ用ヒズ

宝暦中婦女ノ腰ニ五寸繍五寸模様流行スト同リ此ニ寸ニ寸ノ繍又ト模様ヲ描ニスルモアリ裾模様ノ高サヲ三寸ノ繍又ト模様ノ高サニ寸ニ寸ニ寸



京妓娼妓ノ裾摸様ノ画

是亦其好ミ一定ナラス特ニ千差万化ノ物ヲ染ント雖ドモ事ヲ尽シ折大概如此是則チ曙染

夕禅摸様ト夕禅ハ浜有禅歟

婆女ノ裾摸様似之

江戸ノ藝者ハ歌妓ヲ云天保前裾摸様ヲ着ルト雖ドモ此類ニ非ス前ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

帝中婦服裙モ又リノ類ノ華ナラサル用ノ或ハ紋ノ三添テ又紙等ヲ
好ムヿ多クハ黒紋縞小紋等ヲ專トス府令後町藝者中絶三三年来再ヒ看ル
イヨイヨ又用ヰ適々魯模様黒紋有ノミヲ着ス

縮緬
縠モリメン
本字ナシ

京坂今世市民婦女ノ禮服縮緬ハ縠文ヲ專トス、浴織紋
ハ紋ヲ黒ヿスルノ改巻ニ詳ナリ紋生ハ白地ト他色ヲ用
ヰ地ノ色黒ヲ專トシ紋ヲ定紋五所ニシ京坂男
服ト同リスレ共男紋ヨリ小形大裏巴
能紋稍小ク朋二重ヲモ用ルレ共京坂不用ク
ロヲ川越織亀アヤ等ヲモ
ハ用ヰス裾模様ヲ專トス蓋武家ハ帷子ハ
婦女ハ中リ如ク大形ヲモテス小ヲヲ描リシ
二大形ヲアリ
素地ヲ紋ノミヲ存ズ裾廻リ吹ニノミ描ク又社ハ
老婦ハ
裾模様一名裾模様ト云ヒ大形アリ又表
武ハ片
中以下ハ紬文ヲ黒絣等アリ紋ハ裾模様ヲ專トス裡ノ右社ニ有ルヲアリ
紋ヲ着ス黒縮ヲ穿ヲ禁ヲ中ヲ武ハ中ヲ
紬紋ヲハ皆ヲ表ヲ縞紬ハ模様ヲ專トスズ裡ノ紋ヲ
時ノ主人供ヲ等紬文ヲ專用トス
稀ニヲ縞物ヲ專トス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

魚子

京坂晴腹小紋縞ニ用ク　礼服ニモ用ヒル小紋生紋ナシ縞ハ礼服ニ用ヒズ三都ニ列ル

縞細　東海道縞　南部縞　縮緬　結城縞　千筋

糸織　島縞　縞ノ無隆張　京坂小紋ハ殊ノ外ニ用ヒズ　江戸ハ殿様ノ外ニ用ヒズ　京坂ハ先年大納言形小紋又ハ

タリゼニ小紋行レ頃更ニテ廃ス

結城紬　紬島次ノ

三都ニ定紋ノ美服縞細ノ事トスレドモ又京坂ニ流模様上縞或ハ変泉流ヲアレドモ又美ヲ好ノ者ハ縞模様ヲ用ヒ多クハ

スガスニ用事ヲヤリシ蛇腹縞ハ稀ニ変ヘルトハ異ナシ江戸ハ殿様ノ外ニ用ヒズ京坂モ天保度ノ時ハ

縞ハ更ニ絹ヲ紫苧リ今ハ地ヲ用ヒズ恐クハ縞ヲ不用歟

重織（ナイセン）

異服ニモ縞縞ハ平用ヒ礼ニ先ハ紬縞等ヲ専ラ又青梅縞

糸縞　玉紬　重織等モ用リ青梅縞先年ハ三都ニ用ヒ今ハ江戸ニヨリ学ビメセル仕方ニ来ル京坂ハ未ダ廃ラ

玉紬天保頃江戸ニヨリ学ビメセル仕方ニ来ル京坂ハ未ダ廃ラ

傳ヘ学ブ

島縞細二十年前ノ織法ニ一段上品ニ名チリメントヨビシ又安政文久頃ヨリ南部縞ト云ヲ生ズ無織法ニ異アリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

袋ニハ本綿縞ヲ專トス　上等品ヲ用ヒ河内木綿ヲ專トス
多クハ結城縞ヲ用ヒ　河内ハ多クハ倉敷木綿ヲ用ヒ
ズト雖モ未洗色ヨキヲ故ニ好ム　結城ニ似テ又柔ホソキ故ニ
又上等長ク小枝別中ノ下古衣ト雖モ綿細等ヲ袋ニ用ヒズ
白ノ小民モ用ヒ　細ノ下ハ高級ノ婦女ハ袋ニ表裡ハ素ヨリ裡ヲ用ヒテ巨多ノ
袋ニ衣服ヲ中ニテズ長襦ト云フ　襦ヲ用ヒ著多ノ不用ヒ著ハ困民ニ似タリ
民ノ婦女ハ袋ニ縮裡ヲ用ヒ

上等女服ノ裡縮緬龍文等無地及袷模様ノ等紋有或ハ小紋染ハ
引返シ裡表トモ白色ノ物ヲ專前後左右袵共袷ノ用ヒ上襟ノ裡ハ
生紋有モ　細ハ花色縮緬ヲ用ヒ胴裡ハ紅縮緬又ハ都テ
トカヤリ細ノ上品光アリテ竜紋ニ次キ用ヒ此奉書細ハ袷裡共ニ
深ル故ニ引返ス白ヲ引返シ或ハ掛リ裡ニモ
上等ハ美服ニ袷裏ノ紅縮緬ヲ用ヒ又ハ都テ惣模様ニモ
大暑明和安永頃ナルベシ今ハ二都共ニ仿同更ニ無用ニシ
晴服異服ニ縞小紋ニ縮緬ハ女ニ引返シ裡上田島細縞ヤ
ド八膚色縮緬天保年前ハ繰綿縮ヲ専トス縞ハ縦縞ヲ
近年ハ浅葱縮ヲ専トス縞縮程廃ス江戸ハ今モ縞ヲ専トス
近年用ヒ又後年黒裡ヲ用ヒ　美服ニハ黒裏ヲ其次ハ黒ちなり
挟箱ヲ本陣トス黒裡ヲ用ヒ　其次ハ黒紗後　危服ニハ黒木綿裕ニ
又今モ奢ラズ又文政前ヨリ用ヒ其始メヨリ同カラズ
七八年ノ間シ　奢侈ニ奢縮ヲ木綿ヲ用ヒ奢

青梅縞 糸縞茅ニ絹モ用ヒ真岡木綿裡ヲ用ヒ
河内縞ニ花色木綿裡シ 雲織 玉紬ニハ絹裏木綿裏共ニ女用ハ裾ヲ縞或ニ今世ノ薄色ニシ上髏ノ裡ニハ紅絹
ヲ用ヒ此裾ニハ前後左右四ケ谷長一尺五寸ニ左右ノ袵下二尺許ノ
傍或ハ乍ニ花色ニス凡テ裡ノ上下異ナル物ノ新キヲ高坂ニハンカチトモ八掛
共四ツ袵ニ合テ六ツシ丸ニハ掛トモ其表高ヲ得ズ白ニテハ見ヘ
スリマワシトモ裾回シ高坂ヨリ通ノ物ニ八掛ノ裡ニハ紅絹ヲ
用ヒヲ三都ニハ胴裡トシ白縞木綿裡ニモ紅胴アレ共木綿裡ニハ紅
紅胴ヲ用ヒズ高坂ハ木綿裡ニモ紅胴ヲ用ヒシ此所紅ヲモニト訓ズ
ベシ
クレナヒ等ニ訓ズベカラズ

・襦袢以下綿入袷ニ大裏内製シ

高坂ノ婦女羅紗綿入袷ニ黒掛襟又ハ
黒羅紗ニハ黒繻子ノ長ケ二尺五寸許ナル
黒天鵞絨黒繻子並ニ用ヒ
高坂ノ婦女ハ袷綿入ニ縞縮緬等服ニモ掛ケ
服ノ色ニ同ジ定紋有ノ外ハ如ズ黒袷ヲ
江戸モ日前 礼服ニハ不掛ズ晴ニモ不掛ズアリ或ハ掛ズアリ
モノ迫年高坂ヨリ多ク
二重用スルノ高アリ又江戸ハ羅紗
黒繻子ノ裏トシ小民揮女等ハ黒ノ
モ不用ヒ江戸ニテ天鵞絨ヲ用ヒズ
衣服ニモ帯ニ掛襟ヲ半襟トセズ二ツ折ト訓ジ又ハ二都ニ掛ケ用ヒ
三都ニ掛襟ヲ半襟トセズ二ツ折ト訓ジ又ハ二都ニ単服帷子ニハ黒袷ヲ用ヒ
掛ケ折スルノミ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

又神殿の中ハ礼服衣ニ更ニ黒ノ掛袴セズ且ハ赤合羽ニハ天鵞絨ノ袴ヲ下捍ニ着リルシ又大坂豪富鴻池某ノ族ニ百餘アリ其婦女下捍ニ着リ皆更ニ黒袴ヲモ不用ニテ武家ノ礼服ニ似タリ又江戸ノ女太夫トテ三線ヲヒキ民ノ為ニ銭ヲ乞フ者

又近年ニ都ニハ裡襟ト号ケテ襟裡ノ絹ニ代テ黒繻子ヲ用ヒ踏時或ハ内ニ折テ無掛袴ノ如クニス京島原ヨリ起リテ今ハ美服ニハ表ニ掛ケルニ二十日リタリ因ニ普通ノ服袴ヲ為ルニハ内ニ折ル時ニ応テ外ニ折ル外ニ折テ黒ヲ出スハ喪服ニ近ク内ニ折テ黒ヲ不出ハ礼用ニ近シ先年高政君用ニ裡黒紗袴ヲ始メ此裡ヲ大喪天保弘化ノ頃ハ多ク長ニリシ

唯子 カタビラ 今ハ麻布衣ノ名トス礼服ハ黒絽着ニ浄ズ浅葱水アサギ着ノ上ニ着ル裃ニテ非ズ縹。空色ヲモ用ヒ先年九ハ法色ヲ専ラトス黒ハ更ニ用ヒズ

処女ハ裾模様婦ヲ新婦ハ口上手長ハ定紋ノミヲ専トス礼服ハ大名ハ白綾白晒布着ノ下襲ヲ用ヒ袴ハ大紋ヲ着ヘ

船ノ唯子惣ヲ門前 蓋船ハ初夏麻布ヲ用ヒ船下襲ニ白船白麻布着ヲ用ヒ

晴服ニモ麻布船通用スレド又越後及ビ薩摩ノ絣縞絣ガスリ又他色又絽上布十ドオルニ通用ヲ又定紋有モ晴ニ応ヲ着ク五ツ今世薩摩上布ヲ流布トスルシ多クハ絣ガスリシ

船ニ依船トテリ織地依アルシ定ノ廃ヲ用ヒ人柾ヲ締ヒリ唯黒模様等ヲ着スル近年男用裏有衣ニハ今モ用ヒズアリ

暑熱ノ唯子高政ハ奈良縞ヲ専用シ江戸ハ越後縞ヲ着シ奈良ヲ用ヒ人締シ蓋ニ都ニハ暑熱ニハ多ク単衣ヲ用ヒ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

弐ハ晴衣ノ古キヲ着ス葛シ是冬服ハ古ト雖モ晴ヲ量リ夏衣ハ悉ク廃スレバシ用ヒヤスキ事ナリ

又袷ノ服ハ宜敷キ又裾模様又小紋相当物ノ定紋ヲ付シ袷ハ縞ヤスリ絞リノ三品ハ無クテシ

守貞旨今俗ハ麻布單衣ヲ着シ三カビラト称シ本来ハ帷子ノ単衣ヲ指シテカタビラト称シ綿布ヲ羅紗ノ何ニテモ無程ノ単衣ヲ指シテカタビラト称シ

單衣 ヒトエモノハ暑服ナレバ又専ラ袷衣ヲ單衣ナレバ綿衣ハ礼服晴用ヲ其他晴ハ不用ヲ其他晴ハ用ヒ礼ニハ不用ヲ外出ニハ必ズ袖口ニ麻衣ヲ着ス上輩ヲハジメ外出セスト雖モ勤仕ニハ麻布ヲ用ヒ中村ト

紬問 晴ハ黒糸ヲ以テ織ル礼物ヲ何ニテモ用ヒ蓋冬用夏用自ラ差別アリ歟ト雖ベカラズ綿紬上田紬信夫其他種々アリ

木綿小紋或ハ縞又ハヤスリシ凡今俗大暑定紋有ル衣ハ小紋染其次小紋縞其次ヤスリノ次ナスルノ類ナリ大暑ハ礼服小紋晴ハ縞ヤスリ暑熱ニ絞リ浴衣ト

單物ハ木綿ヲ専トス高級ハ用ヒス乱地縞島ノ専用ニ近年綿織ノ物多ク着スレバシナリ

白ハ今世絣銚子縞縞ヲ専用ヒ絣ハ地白縞シ模物多ク又横物ニ紺糸交ハル者アリ銚子縞大阪ニ多シ

高級男女ハ青梅島ニ暑熱ニ用ヒ今ハ廃ヲ絣シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

又ハ薩摩絣地ノ中ヘリ本綿ヲ著ス先年大流行
今ハ廃スト雖ドモ又用ユル人アリ
又単物ノ小紋ハ三都ニ男子羽折等ニ
盛ンニ華シキ紋ノ様ニヨリ地白ヲ下ニ
船絹布晒布絹紬綿面本綿等
浴衣ニハ羽折等ニ用ヒ染ズ但今ノ
差別アリ又地色染タルニ
ニ非ズ中形大形ニ用ユ

帷子単衣ニハ襟ノミ裕ス其襟裡
等ニ麁ヲ用ユ婦人ハ帷中等
ノミ又通用スル所老婆ハ帷ヲ用ヒズ
又異変ニハ晒布或ハ本綿ヲ用ユ
多クハ浅葱或ハ白シ男用ハ無ク白晒布ヲ
又女用絹紬無地ヲ専トスル所
ノ物ナリ

帷子単衣ニハ襟ノミ裕ス其襟裡
等ニ麁ヲ用ユ婦人ハ帷中等
ノミ又通用スル所老婆ハ帷ヲ用ヒズ
又異変ニハ晒布或ハ本綿ヲ用ユ
多クハ浅葱或ハ白シ男用ハ無ク白晒布ヲ
又女用絹紬無地ヲ専トスル所
ノ物ナリ

又帷子単物ニハ女用ハ袖口ヲ撮リ男用ハ
専ト又老婦ハ浅葱絹ヲ縫ヒ又紫浅葱ニ
多キ所

女用帷子単物ニハ異変ノ物ニハ袖裡
ヲ絹ヲ用ヒズ袖口一寸ハカリ内ニ折

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

又雛ノ單物ハ二幅袖ハ婦女人形トさ
袖チリメン等ニテ細リヘリトルモアリ
處ニテ十五六ハ上ニ用ユ

幅袖ハ單衣浴衣ハ綿單ナルハ其用意ヲ異ニス單衣ハ
偏カスリハ絣地萌黄ヲ用ヒ紋ハ中形後リ萌ヲ用ヒ
蒿小紋ヲ細密ニ地亂地萌ヲ用ヒ地白ハ不用ユ
袂アリ大略外出着ニ用ユ
又單衣裸ヲ浴衣トナズ浴衣ハ單物トナズ

浴衣ハ自ラ異シ偏カスリハ大形ニ
申形小紋ハ地白ヲ專トス又紋リヲモ
外出ニ不用ユヲ本トス偏ハ職婦ハ外出ニ用ユ
ヲ許サズ

浴衣ハ袂ニシ袖ハ廣袖ニス
幅ニハ下前ノ如ク裏ヲ付ケ
カヾリヲルアリ極ヲ幅ナルハ甚ニ不
用ユ帶ハ納凉帶ニ着スノ類ニ
アリ通例ハ角袖ノ縫シ又
江戸ノ如ク刺縫ニスルヲ更ニ無ユ
又内縫ヲ浴衣ハ角袖トモヲ四形ニセザル物ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

又ハ高坂女用浴衣ハ白地藍小紋ヲ専トシ偏白絣并ニ慶偏甚花モ白ガチナル物又カスリ地白ナル地絣モ大カスリナル物又絞リ等次ニハ小紋ヲ絞リヲ専トシ其他次ニ又ハ高坂ハ小紋ノ浴衣真岡モ用ト云ハ真岡ニ非ル粗本綿ヲ用ヒ故ニ藍色ヲ自ラ多シ絞リ雑女ハ今愈ノ絞ヲ専トスル

端書大略十三歳以下ヲ雑女ト云ヒ十四五以上ヲ婦ト云ヒ又婦女ト云ヒ又婦女ト云ヒ又婦女

真岡木綿地白藍小形絞上面ノ如キヲ専トス
稚女浴衣ニ多リ
處女ニテ往々有之
婦ニハ稀トス
京坂ハ婦女共ニ上下四面等物ニ通用ス

是モ稀シ
白地小絞ナレ共
此ズトキ汗戸ニテ用ヒズ
京坂ハ用ノ

又白戸ハ縞細絞等ノ物モアレ共縞ヲ専トシ又
ナクリモ細キハ往々用ヒ絞リハ不用ナレ共外出ニハ縞
ヨリ是ヲ専ラ単物トス実用ノ浴衣ニハ白地
大ヲ専ラ実用ノ浴衣ニハ縞形深カクリ広
又白戸ハ婦女ハ小絞形深ヲ用ヒテ絞リヲ専ラ
高坂ハ後リテ用ヒレ共形深ヲ専用ス蓋白戸ヲ先手ハ形深多リ天
保以来絞リヲ流布トス
又白戸ハ稚女ハ形深ヲ専トシ絞リ深ヲ次用ス

又小絞深更ニ無紋ト雖モ一ツ衣裳又ハ帷子ヲ推スベシ
又白戸稚女ハ帷子単物浴衣ニモ縞形深カクリヲ掛
襟スルヲ礼ニ非ズ表ニカケルヲ礼トス
盖宅絞リヲ
五六年来京坂ヨリ白戸ニ倣フテ用ユ

又白戸ハ婦丁稚モ袋ニハ絞リヲ大小ヲ論セズ京坂ニノミラズ浴衣ト
称シ物ヲモ着ス高坂ハ不用ユ
又白戸浴衣ノ後リムキニ後リ柳絞リ
甚キニ至リテハ背ヨリ両袖ニ経リ一模様ナルアリ或ハ香ヨリ片袖ニ係
ルモアリ
弐者ト裾ト二模様等アリ
ニハ稀シ白戸モ賤婦ノ用ヒ上輩ハ用ヒズ又稀ニ形深モアリ
又前ニ云如ク白戸ハ単衣ヲモ浴衣ト称スベカラズ
又絞リ単衣ニ用ヒズ浴衣ヲ専トスレ共縞ノ如キ地色ニ絣ノ細キ
柳絞リハ縞ニ似タル故ニ単衣ニ准用ス此単衣ト浴衣ノ差別ハ
甚タ表ニ難キシ
又実用ノ浴衣ヲ男女共ニ専ラ袂ヲ縫ズ所謂広袖ヲ専
トス刺縫ニモ及ザルシ単衣ニ准ズル浴衣ト云物

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

専用スルガ故ニ実用物ヲ湯上リ浴衣トシ凡呂敷ヲ今ハ手裏ノ名トスル故ニ浴室実用ノ物ヲ高坂ニテ湯凡呂敷トシト日日ノ歎シ

又晒麻布白縮布菅ニ中形大形菅ノ盆模様染ルヲユカタカタビラトシテ稍ニ用ユ因テユカタトシテハ湯帷子ユカタビラトシテノ下着ナルベシ

又三都共ニ處ヲ娼妓等地白ニ絣島菅ノ白勝ナル縮緬單衣ヲ着ス其様浴衣ニ似タレ共是菅ハ白絣ノ單物トシ

又三都共ニ昼ハ浴衣ニテ外出ヲ憚ル婦女モ夜ハ浴衣ニテ外出スルモアリ因テ美人ハ格別普通ノ婦女ヲ浴衣ニテ十人並ノ女ハ昼ハ絣ノ縞ヲ下ヲ着スベシ夜行ニハ地白ヲ宜シトセンカ其故如何トナレハ昼自ラ肢着ヲ見事ナル者稀ニ夜中ニハ美人ノ如クニ見エルモノナリ

又三都共ニ

又高坂辺ハ肢ニ下駄ヲ着スル共晴暑ヲ厭ヒ雨雪ヲ防ク為ニハカリモ出スシ号ニテ鉄下ストモ下駄ヲ用ヒ物ニハ袴周リニ寸許リ

又近年小機絽ノ古衣ヲ麝ニ着スル人稀ニ有ヨシ高坂ニハ無ヨシ

上京坂女服下着或ハ白晴暑熱ノ
ニハ上着ハ白下着ハ袵倫ヲ用ノ白戸武家ハ勿倫坊間ト雖モ
ヲ用ヒズ白絽ヲ専用ス

昔ハ坊間着修ノ輩ニ平日モ白下着ヲ用ヒレーアリシヤ之禄七年印
本大坂人西鶴織留ニ姑婦嫁ノ争ヒヲ条下ニ載セ不断ハ中衣帯ヲ
ニテ花ヤカリシニ今此ヲ改メ帯住ノ風俗ヲ
中ニハ唐ヨ上ニハ黒羽二重ノ小袖ヲ着ハナサズ
着ノ着ソウナル袖ニ百呂海ノ白絽ヲ
ヲ〇我ヲ不弁ハヲ〻ヲ〻ヲ紫茸ヲ帯ヲ
ヲヨリ下ノ条女帯ノ条ニ載ル所ニ連修ノ
守貞ヲ今世ヲ著修増長ノ時ナレ
人更ニ無ク今世ハ陽ノ粗ニ内実善美
稽ヲカケテ褻服ニ准スヲ当世凡ヲ外准ヲ

我衣曰寛延年中若干女黒裡ノ小袖流布ス上ヶ保ノ初メ若干男白茶ノ裏ハヤル宝永ノ頃ニ至ル千ヤ元文以来ハ小朋蔥裏ニ至リ江戸ノ下ニ限リ御納戸茶古来ハ小朋蔥裏ニ至リ流行ス天保中ニ至レ独其ノ同ニ他色ノ裡白倫ヲ用ヒタルヲ流布ス蓋シハ歌妓ノ二裡ヲ致妓ノ腹表モヘギノスソモヤウ

今世江戸婦女禮時ノ服ト常服トヨリ礼ハ黒縮緬ヲ以テ有ル事ニ晴ニハ小紋ヲ専トシ縞ヲ次トス喪ハ無模様ヲ専トス模様有無ニ無地ヲ非ズ色モヨリ模様ハ無模様ヲ専トス模様有無ニ無地ヲ以テ又模様有無ニ無地ヲ以テ礼ニハ黒縮緬ヲ以テ裡モ前ニ出ル所ノ表裡ノ品ヲ以テ又江戸ハ武正無地紋有小紋ニテ注織紋ヲ用ヒ二細微ノ織地文アル物ヲ深ムシ江戸ハ男服羽折ニテ陰ヲ用ヒ注織ハ縮緬若ヨリ次トス

江戸女服無地文有ハ川辺ト裡小紋縞ハ縮緬若ノ美服ハ先年川辺ト裡ニ辺ハ今ヲ川辺ト裡ニ二十年来小紋ニハ川辺ヨリ替リ裡ヲ用ヒ表裡ヲ替リ裡ヲ用ヒ表裡ノ下ニ詳ナリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

普通縮緬ト称ス
精製ノニ非ス
真製自ラ異ル

庶人婦女晴服ニ上品ノ緞ト大同小異ナリ黒其他生絹ヲ用フ
次男ヨリ以下ニシテ小紋染定紋ヲ用ヒ縮緬ヲ
専トスルヲ今世ニ緞礼服ニ縮緬ヲ専トス又編ヲ用ヒ縮緬ヲ
掟小紋染縮緬ニ種々アリ御召縮緬ヲ専トス無地又小柄
上品ヲ貴シ世ニ有テ後染ノ縮緬ノ精製ナル
又南部縮緬綾織縮緬等次ク今専ラ用ヒ南部紡織者ヲ稀トス
縮緬ノ種類ナル無地故ニ男子ノ衣服ニシテ者ヲ着ス
又竜紋羽二重浪縞等ノ小紋ヲ用ヒ晴暑ニ着ス
ヲ千筋ト云ヒ皆通世ノ称ナリ蓋通世ノ
ニ非ルヲ謂リ小紋ト云ヒ今世ニ
上下ニハ総小紋ヲ専用フ
又縮面ノ縞ハ天保中ヨリ女用黒地ニヤタラ縞大流布ス今ハ
黒地絣地ニ替リ縞ノ流布トシ嵐地ニ
嘉永ニ至リ浅黄地茅ノ淡色地ヲ用ヒ
縮面細島ニ流布ス味噌漉島トテ
流布ス

嘉永ニ至リ安政ニ至リ右ノ絣減リ細微ノ縞ニ白蛇腹茶ニ

五所又ハ二所定紋ヲ織ル流布ス蓋晴服ニ此織紋ヲ用ル人多シ
男子ハ不用ヒ上層ニ上層ニ文政末ヨリ天保ニ至リ略ス
時ハ男子ニモ稀ニ用ユルハ中民以下專トス
安政ニ至リ江戸ノ婦女晴服ニ地紋ヲ織ニ出テ石畳形ノ輪ノ形ノ或ハ方三分バカリノ碁ノ形ノアルヲ用ユ衣服羽折ニモ用ユ
織文ヨリハ劣レリト雖モ四五十年前ハ用ユル故ヲ以テ
多クハ萌木色若ハ且紋形モ唐艸或ハ竹花等ノ類シ稀ニ其後久シク廢レテ
用ユル人ナカリシガ嘉永末ヨリ紋チリ用ユル式ハ絹地ニ濃鼠色ノ縦横
ノ絹横正列ノ形ヲ用ユ式ハ絹地ニ濃鼠色ノ縦横島ノ類シ此紋織ノ絹ヲ
四ニ織ハ多クハ異ナリ
部織面ト
安政五年ヨリ右ノ南部縮面漸リニ廢シ絹無地式ハ絣織ノ絹縮ヲ流布ス
織精ニテ價縮緬ニ等ス金一両一分ヨリシ

異服ハ織ヲ專トス定紋ヲ付ケ又ハ織ヲ用ユ織ニハ織面
上田紬縮緬ヨリ紬南部縮緬其他紬類絹ノ類種々
小紋モ絹紬縮緬ヨリ種々

天保ヨリ琉球紬流布ス女用ハ上ニ着シ下着ヲ用ユ男用ハ上着ニ下着ヲ用ユ
無キ程ナニアラネド織多シ上層ハ流布セズ
日時前後玉紬紬ノ一種シ琉球紬ヨリ價賤シ琉球紬ヲ着スハ
流布ノ雖モ多クハ人ニヨリ晴服ニ非ズ故ニ
本編ニ近キ故ニ晴服ニハ遠リ藝ニ近シ玉紬ハ着用ノ人甚ヲ
アリノ色ヲ好ム之都鄙女專用ス

其後黒織メイセン或ハメセント號ル茶地縞茶縞
メセンニハ塵芥多クシテ堅カラズ故ニ玉紬ニ及ハス今ハ用ユル者ヲ

麤服ヲ大異ト高坡ト曰クスト雖ド自ラ記ド花美シ
綿ヲ結織ヲ事用トス結織ハ木綿ノ上品シ
ト云ヒ一ニ非ズ一物ノ地糸ヲ称スル物ノ模造ニ真物ヲ本ンバトス
辞書ハ紫茎ハ大衆村ノ本場トセリ類ラシ
記ドハ亜麻青梅木綿ノ麁ヲ用ウ人
糸島トス物ヲ前麁ニヲ用ヒズ玉繭モ
セリ三綿服ニハ結織ナレド又メイセン等ノ
ナルヲ用ヒ苧麻新刻ハ棉ニヲ異物
テ原色ヲ損ズ物等ハメイセンノニ非ズ
ヒ木人呂ト家ルト生素トニ因ル高坡
古衣服ニ麤服ニ用ウ是メ稀シ
又高坡ニヲ結織木綿ハ著ルレド記ドニ
極テ粗服ニハ岐阜木綿備松坂綿等ヲ用ヒ
結織ニ似ル故シ河内ハ糸色美ナルベ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

替り裡ノ流布　文政天保頃ヨリ
又因テ文政以前ヘ礼晴茅ノ肢表裡
ズ替裡迎世ノ流布　抑々トス
天保年後弘化始メ茶　天保度
ヨリ用ル　弘化ヨリ嘉永初メ草
緑色ニ変ニアルシ今嘉永四五年
ニモイタモ茶ニ近ト雖モ彼ト異ナルベシ
其後流布ノ色翻然ニ近書スベシ
略ス尺許ト社ハ標論也近ヲ流布
ニアラズ裡ハ裏ニ近ヲ蓋替リ裡ハ全裡ニ非ズ裡ノ裾大
前後左右四ツ社ニ六掛シ八掛ト書スル所ノ
通世ハ右ノ如リニ替リ裡アリテ時々沢草シ礼晴肢ハ繁用ナラ
ザル故ニ損破少ノ表一ツニ三年ニ二回ホドヅヽ時標色ノ裡ト云シ
是迎世一ケノ費シ又印ノ替リ裡上着下着二ツ領ニ入ラバ
色ヲ用ノ他色裡ヲ重着セズ表ハ上着ト下着ト異シ裏ニ下着
二頭ノ物ハ表裏色シ上着ト異ナシ裡ハ用ラズ又上着引返シ下着モ無垢トシテ表裡ノ物ト上着

又上着ノ返ニ非ス替リ裡ニテ下着ニ無垢ハ用ヒズ上京坂ハ二ニ領共ニ異色ノ裡ヲモ重着スルヲ以テ近世ハ裡ヲ用ヒズ昔寛保中ニ用ヒシト聞リ又云ヘリ替リ裡其流布ヲ云ヘリ茶ノ流布ノ時モ師伽ヲ用ヒ是ヲ用ル者ハ年若リ流布ノ時ハ年長ニ随ヒ流布ニ拘ラズ又年長ニテモ必ズ流布ヲ用ル者アリ又年若ニテモ必ズ流布ヲ好ムニモアラズ又ハ極テ稀シ是ハ袈裟ニテ久シク故ニ用ル年袈裟ノ海老色ハ色薄シ草色ハ濃ク今ノ海老色ハ雅ヤカノ新服ニ用ル事最ニハ事トセズ唯特ニ流布ヲ好ム者ノミ又前ニ如リ替リ裡袴周リニ用ヒシ氏多リハ紅絹ノ胴裡シ

異袈裟ノ裡ニハ縹色ヲ専トス又シ上京坂ハ二ニ領共ニ礼賄ニ着リ裡アリ異袈ハ花色シ花色ハ縹本偏ヲ名異トスル氏ニ非ス唯ノ縹ト濃ノ深ト淺ニ淺ト濃ト有リ僧ハ縹ヲ着又実ノ袈シ銭陽ニ往リ香ニ衣ヲ更ル唯袈ノ服シ此唯袈ハ花色絹ヲ専トシ本偏ヲ専トシ真岡ヲ用ル者稀ニ多ハ真岡本偏シ又近世ハ本偏裡ニ普通ノ本偏ヲ用ル者多シ真岡梨ノハ未細リ実シ僧大異ニ僧深ヲ専トシ真岡ハ千種色淺黄深ヲ専トシ又近年又模物アリ今真岡ト書ルアリテ真岡裡ト無ク行ハル印ハ近年ヲ色流布ヨリ専ラ本偏ニ用ル又女用花絹裡ニ都氏ニハ秋裕廻シノ花色裡ニ多用ル全裡花色ヲ専トシ本偏裡ハ紅ノ胴裏ヲ用ル都氏ニハ撫裕廻シノ胴ハ紅絹ヲ用ル事トス又印ル雅女異袈ノ服裡ニハ中形深香ノ物ヲ用ル上京坂ハ不用ル仁本偏ヲ用ル又弘化以来上京坂男女縹絹裡袈ノ淺葱ヲ流布ト云ヘリ薄色ト云江戸ハ男女氏ニ今モ縹絹本偏裡ニ淺葱ヲ専トス上京本偏ハ淺葱並本偏ハ縹多ク

花色絹ヲ専トシ本偏ヲ稀ト云ヘリ自ラ上京坂ノ本偏裡ヲ専トスル氏是亦事ト異ニモ花色絹ヲ用ル

又近世ハ本偏裡ニ普通ノ本偏ヲ用ル者稀ニ多ハ真岡本偏シ真岡梨ノハ未細リ実シ僧大異ニ僧深ヲ専トシ真岡ハ千種色淺黄深ヲ専トシ又近年又模物アリ今真岡ト書ルアリテ真岡裡ト無ク行ハル印ハ近年ヲ色流布ヨリ専ラ本偏ニ用ル又女用花絹裡ニ都氏ニハ秋裕廻シノ花色裡ニ多用ル全裡花色ヲ専トシ本偏裡ハ紅ノ胴裏ヲ用ル都氏ニハ撫裕廻シノ胴ハ紅絹ヲ用ル事トス又印ル雅女異袈ノ服裡ニハ中形深香ノ物ヲ用ル上京坂ハ不用ル仁本偏ヲ用ル又弘化以来上京坂男女縹絹裡袈ノ淺葱ヲ流布ト云ヘリ薄色ト云江戸ハ男女氏ニ今モ縹絹本偏裡ニ淺葱ヲ専トス上京本偏ハ淺葱並本偏ハ縹多ク

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

下着ハ一領或ハ二領寒暖ニ應シ二領ニ
及ヒ候トキハ白衣倫子等ノ事トス民間男子ハ白着ヲ
又白引返シノ裡ヲ胴ハ紅絹ニシ御殿女中ハ禁止シ候間ハ白衣倫子等ノ事トス
アル島田曲ノ女中ヲ御殿ハ白下着ニシ
着ヲ本トシ小袖無垢ヲ用フレ共晴ニハ上着袴
下着帷子ニテ白晒布ノ下帷子ヲ着又ハ
用ク又袴下着白ヲ用ヒサルニテ晴ニハ小袖
用ヒズ
追テ京坂女下着坊間白倫子ヲ用フレ共白衣倫子
事トス

晴腹ニハ小袖無垢ノ下着ヲ事トシ表裡ノ色折詰リ返シ胴裡紅絹京坂ニテハ
又白表裡ハ二ツ都ニ白無垢ト云小袖ハ上
ハ用ヒス小袖無垢ト云京坂小袖ヲ用ヒ
着ヲモ用ノ又政頃ハ美ヲ好ム京坂小袖ヲ用ヒ
下ノ着ニテ其後上流ノ婦女ハ白紫金ノ縫箔
ニ都ニテハ小袖下着ハ無地紋紗小袖ノ縫箔
晴ニテ上着ヲ通シテ用ヒ又小袖ニテ着ル者ハ
京坂用ル者アリ江戸ニテ帰天用ル
下着小袖ニテ着ル者ハ不用ヲ本トス江戸

異裂ノ下着ハ上着ニ准ス　婦女ハ三都ニ白ハ全體ナレハ小褸中形
計裙額仕立シ無垢ノ類ナルヲ褸下着ハ閃リト内ト異色異色ノ物ヲ
二色ヲ以テ二物ヲ表ヨリ見ユル様ニ用ヒ無垢ノ類ハ内ニ二色種々ヲ縫合
セタルヲリ是類仕立ニ主意ニテアリ　閃リニ褸小紋ヲ用ヒ内ニ鄕紫
ノ後リ等ヲ用ヒハ花美ヲ好ミ數試ヲ経タル者ヲ用ヒ又小紋褸ニ領ノミ非ス全體ノ物ヲアリ或ハ下着
二領ノ時男女ニ問着ヲ全體ニテ下着ノ裡上着ニ准ス　白無垢小紋無地紋ヲ
ト異色裡布褸ヘ裏リ裡ニ五リテハ上着ニ下着表裏ニ白色ヲ用ヒ裡ハ今ノ上着ノ
表ハ上着ト異ナル裡　裡ハ淡色ニシ上着ト下着ト異色ニシ
赤准ス　高砂ハ上着ト下着ト異色ノ物ヲ用ヒ又止
着異色ニテ下着無垢ハ白色ヲ用ヒ

今世下着ハ初冬中春華一領表服ニ二領
下着二領乃チ表服ニ二領シ中冬ヨリ中春ノ間ハ
一二領重ル遂連無ク大異リヲ褄ニ下着ニ四領シ
着ノ人モアレド褄シ又下着ノ二三領ヲ褄ニ
下着二三領ヲ物ノ色シ異ヲ對ノ下着ト
異物ヲ重ル者ヲ褄ト云蓋三都男女ニ
ニテ素服ハ華ナラサル者ヲ用ヒ下着ハ華ナル者ヲ用フ
下着不華表服華ナルハ褄シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

中肢礼肢ニハ三都氏ニ無黒掛袴一晴服編小袖氏ニ帯坂無黒袴
ヲハ黒縮子掛袴ヲ用ヒ僧ニ似テ着ル小袖編ニハ昔ニ三寸ノ前ハ掛袴ヲセス也手掛ヲ用ヒス袖細ク下帯ヲ掛ル袴ヲ用ヒ紅紬ヲ用ヒ折ヲ今ハ黒編ヲ着ル其折ノ裡ハ黒ヲ用ヒ内ニ折テ黒ヲ出セリ晴暑ニハ外ニ折ヲ出ス帯坂ヲ通年製シ氏多クハ無掛袴ニ出シ着ス

暑熱ニハ三都氏ニ黒掛袴ヲ蓋シ大坂ニテ礼熨氏ニ無黒袴又其他ハ共ニ黒袴ヲカケル帯坂ニテ礼熨氏ニ無黒袴ノ黒ニ繻絨ヲ用ヒ紐ヲ編ミヲ用フヲ常トス

右ノ如ク三都氏婦女上着ニハ黒袴ヲカケリ氏下着ニハ黒袴ヲカケズ男子ハ三都氏ニ上着ニカケズ下着ニハ黒袴ヲ掛ル也用ハ礼熨

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

比翼下着ト号テテ用ル二領ノ如リ内一領ナル物ハ人形仕立ト云事ハ
男服条ニ詳カニセリ扨男用稀ニテ婦人ノ用ヲ兼ルモ
間ニハ女モ用ル稀ニ婦ニ多クハ京坂ノ娼妓ニ用ル

二都氏ニ十二三以下稚女表服ニ往々黒天鵝絨ニ金糸繍シタルヲ用ル盛ニ
野単ノ如キテ長ク上輩ニハ甚タ稀ニテ賤民ノ富テ美ヲ好ム親ノ為所シ
中ニモ江戸ハ踊リヲ学ブ稚女ニ多リ其他ニハ無ク坂ニ二都氏ニ何レ稀ニ
多ク用ヒ繍ハ角ツナキ鈴蘭菟葵アル瓢箪ノ類ヒ

衣服ニ俳優縮緬ノ掛袴ヲ用ルハ吉原ノ遊女四時ノ衣服ト云
ヲ十二三以下稚女ノ服ノミニ稀ニ用ル盛ニ稚女モ多ク
用ル常ニテ京坂娼妓稚女ニ不用ル吉原ハ娼妓未用ル

今世婦女衣服袖ト二都氏ニ襦袢服ニハ黒繻子裏ヲ用ルハ
細ヲ専トス蓋京坂ハ礼服ニ供袖ト云ヲ不用ル江戸ニテ着ハ用ル夜今世ハ礼晴ニモ
黒及ビ其他ヲ用ルト云二都氏ニテモ本儒ハ更ニ用ヒズ因テ男服羽二重ハ嵐織黄茶下着無ヲ専故ニ
准ズルニテ上着ノ裡ヲ袖ヲ嵐織ヲ用ル其他ハ一切黒ヲ用ル
女服胴着ノ袖ト上着トハ色ヲ用ヒ袴ハ編平ニテ色ヲ用ヒ
京坂ハ袴胴着袖裏共ニ黒色ヲ稀ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

前ニ云ル如リ昔ハ三都男女ニ紬郡内太織等ヲ美服トシ平日ハ木綿或
ハ茅ヲ着ス寛文頃ノ花美ニ非ス元禄世上愈美服ヲ用ヒ然レ共当時ハ
猶節儉ニシテ金糸縫等専ラ華ナル物ヲ用ヒス今世ハ外見華ナルズシテ
其實善美ヲ競ヒ譬ヘハ男子ハ素ヨリ婦女子モ凡流ヲ旨トス紙衾ハ久シ
綿上布ハ麻布ヲ上ル其價鉛衣茅ヨリ貴キ物アリ蓋唐機ハ木
ハ礼服ニ非ス晴服ニ用ヒノミ又二品民撲造ヲ着ス者モ甚タ多シ唐機ハ武
州河越ニノミ多ク撲織ス真物ノ如キ物アリ号テ
唐ヤシノ暑シ上布ハ越後ニノミ撲製スルヲ
今世女服ノ大概真晴用ヲ云ハ禮服晴暑共ニ御召縮緬シ
礼ニハ黒紋付ニ小紋ノ紋付暑ニ縞縮緬ニ兩共織ヲ当時様
ヲ好ム婦女トス
単物ニハ銚子縮絣縞嗹子ニハ上布縮ヲ上布ハ絣ヲ帯ハ
礼服ニ繻子晴暑ニ絣縞子絣縞子ニ繁ニ繁縮緬ニ品アリ
丸帯ヒ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

胴着　婦女之を用ゐ襦半ノ上下ニ着ス是甲冑ノ異腋ナルヘケレハ今世民間専用ス　中冬ヨリ初春ノ間重ネテ寒ヲ凌ク料ノ羊皮形ナル男用ト異ナチスヘシ故ニ異ナルチスヘシ故ニ異ナルチスヘシ

多ク錦繍ノ縫識ハ小紋又ハ中形ニ彼リ俗ニ小紋又ハ中形ト云ヒ又男用ハ異ナル女用ハ他色ヲ以テ襦半揃ヒ

胴着ノ男用ト異ナルハ揃衿男用ハ異物ヲ選ヘスト云ヒ又襦半揃衿胴着ノ異物ヲ選ヘスト云ヒ又襦半揃衿胴着ノ異物ヲ選ヘスト云ヒ

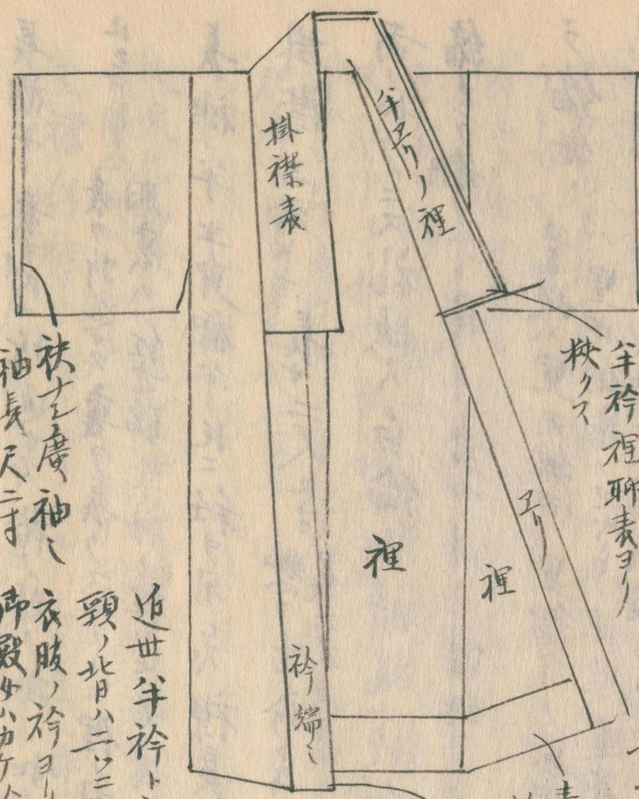
ト云ヒ又襦半揃衿胴着ノ異物ヲ選ヘスト云ヒ又襦半揃衿胴着ノ異物ヲ選ヘスト云ヒ

衿ナルヘケレハ又男用ハ異物ヲ以テ色ヲ用ヒ異物異色ハ又男用ハ紅裕裡ニ

又三都ニ無袖ノ胴着アリ襟ヲ前ニ下ケ三ツ巴ノ紋ヲ付サルツユトナク襟児シ此ノ無袖ノ条ニ載ス蓋無袖ニ三都ニ用ヒ国民ニ多ク国民ニ用ヒ三都ニ多ク又ハ表ニ着ス古小袖ニ載セ色ヲ組合セ多キ事アリ

今世ノ婦女ハ礼服晴服ノ時長襦半ヲ着ス襦半ハ肌着ニ男子ノ袖ト帥殿女中ノ半身ト市中婦女ノ袖トアリ半身ノ寸晴ニハ長サ二尺八寸ニシテ俳優等ノ無地又ハ山繭イリ又絞リ又中形染等シ裾ハ紅絹ヲ用ヒ袖ハ紅絹ヲ用ヒ袖口ヲ二寸程折返ス

長襦半衿



半衿ヲ衣ノ如クスルハ士民ノ婦女娼妓等ニシテ半衿褄表ヨリ被ク

近世半衿ト云ヒ掛衿ト云ヒ又ハ襦半ノ衿ト本衿ト階ノ幅ニシテ頸ノ背ハ二寸二分内ヘ折ラ下ハ衽ノヒロゲ折スルテ衣服ノ衿ヨリ長リ出ス婦女ノ衣ヲ帥殿女ハ力ケ衿ヲ本衿ノ形ニノケテ出サズ

婦女ハ諸肢又キヨリニ着スル故ニ長ニハンノ前ヲ少シ長リス衿脊ニ押出シノツロノ着スヲ抜衿ト云髪油白粉等ノ衣ヲ穢ヲ忌ンシ又頭ヲ長ク見スル意モアリ

長襦半　表ヲ内ニ折返サズ　袷ノ服ノ裾ノ如リ裏ヲ一ニ分表ヨリ長ク吹アルモアリ　表ヲ折返ズ裏ヲ長リスルモノハ裡ノ周リ専ラ浅黄縮緬ヒ他色縞ノ胴裏ハ紅木綿ヒ袖ノ裡ハ皆甚ダ又緋チリメンヒ

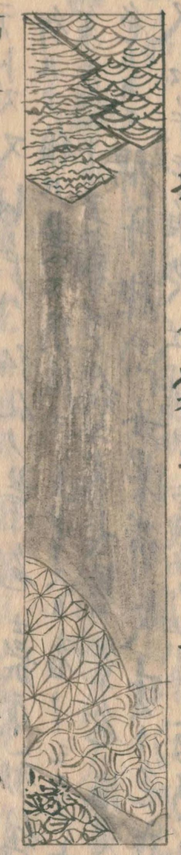
長襦半半衿ナキ　長サ二尺寸　惣テ半衿トモハ諸服ニ幅三寸七八分或ハ四寸掛襟半衿ヒモ　長サ二尺寸　幅ハ六寸ヒ

面ノ如リニス　礼服ハ白綸子　晴服ノ時白或ハ深綸子又ハ織紋ノ類ヒ縮緬ナンヲ用ルモアリ　稀ヒ　袿ハ晴ニ縮緬ヲ用ルモアリ　略服　礼服ノ時ハ専ラ縮緬ヒ　京坂ハ黒天鵞絨　黒繻子ノ無地或ハ黒縮緬ニ白糸ノ細小ノ縫或ハ黒地細条ノモヤウ染等ヲ専ラ用ヒ　他色ヲ用ヒズ　紫茶等ヒ　江戸ハ紫慶子紋リ或ハ紫慶子ノ今ハ草色或ハ納戸ヒ形染ヲ専ラ草色　嘉永ノ今ハ草色或ハ納ヒ形染ヲ専トスルヒ　又三都ヒ紫ヲ用ヒズ　京坂ハ黒ヲ専トス　又慶女ハ年寄三都ヒ緋ヲ専トス　京坂ハ緋縮緬又ハ緋細ニ金糸ヲ以テ綱麻葉等ノ縫ヲ専ラ緋天鵞絨ヲ用ヒズ　又他色ヲ用ヒ　江戸ハ緋慶子緋チリメン無地ハ用ヒズ　江戸ハ縞ハ用ヒズ　又近年形染板メ等ヲ用ヒズ　京坂ハ緋ノ形染板メ絞ヲ用ヒ

帯　緞子中下着ハ二ツ折ニシテ　若女ヒニ白繻子ノ無地白縮緬ノ蒔ヲ用ヒズ　況ヤ他色ヲヤ　江戸ハ紫或ハ黒地細条ノモヤウ染等ヲ専ラ用ヒ　紫茶ヲ専トスヒ　又慶女ハ年寄三都ヒ緋ヲ専トス　京坂ハ緋縮緬又ハ緋細ニ金糸ヲ以テ綱麻葉等ノ縫ヲ専ラ緋天鵞絨ヲ用ヒ　又他色ヲ用ヒ　江戸ハ緋慶子緋チリメン無地ハ用ヒズ　江戸ハ縞ハ用ヒズ　又近年形染板メ等ヲ用ヒズ　京坂ハ緋ノ形染板メ絞ヲ用ヒ

白繻子ノ無地ヲ専トス　白縮緬ヲ蒔ヲ用ヒズ　況ヤ他色ヲヤ　坊間ハ或

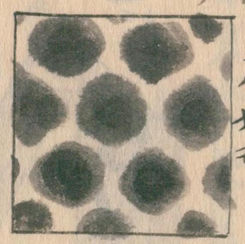
嘉永中嘉坂婦人襦半衿地黒縮緬ニ胸ノ両辺ヨリ見ユル所ニ細ナル絞リアルヲ流布トス昔ノ唐ヌノ如リ散絞リシ又雅ナ處ヲ三ヶ所緋縮緬ノ印金ヲ点布ス印金ハ昔ノ摺箔シ布若ヲ以テ押ニスルシ今ニ都ヒ摺鉛ヲ用フ一ツ他ヲ圓ク安政二年二月ヨリ江戸新婦等襦半ノ襟ニ地藤色縮緬ニテ遠絞ノ如ク二ツ所雲形ヲ絞ル又ハ松皮菱ノ數ニ津降キ其所ニ浅色ノ茶又ハ萌黄ノ色モヲ青海波麻葉等ノ數ヲ染タル物ヲ用ヒ流布ス二三ヶ所各々色ト絞ヲ異ニシ地ハ勝色此形先年ヨリアリテ今ニ古リ鈍色ナリ



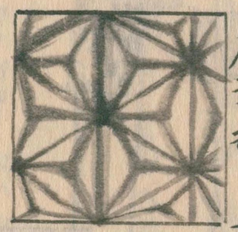
面ノ如リ種々ノ形アリ乃チ更紗染シ華後布ヲ用ヒ又近年江戸婦女襦半襟ニ黒式ハ藍色ノ天鵞絨ヲ用フ京坂ハ往昔

襦袢半衿ノ様ヒ礼暗略ニ緋縮緬式ハ紫系ヲ用フ

長襦半 半襦半ニ表地三都ニ處女新婦等ヲ緋縮緬式ハ鹿ノ子式ハ山繭入又ハ都ニ辺半流布セシ石垣形投ケ絞リ縮面シ嘉永ニ至リ廣ク用ヒタリ二品ニ二ツ麻葉形ニ用ヒタリ二品ニ二ツ



石垣形



麻葉形

二圖ニ緋板ニテ絞リ深シ彼大サ麻葉三ツ石垣二ツ餘シ

裲半 半襦半ニ同ヲ他色ニテ則額制ヒシ

婦ハ紫等ヲ專トス緋縮面ヲ用フレニ肌ヲ他ニ重セズ又全ク緋ヲ用セザルモアリ

式ハ絣絞リ等 組無地ヲ用ヒズ紫ハ無地モ絞リヲ山繭入等モ用ヒズ

無紋色一蓋襦半及ビ褌ハ縞ト小紋ヲ用ヒズ

半毋襦半ハ長襦半ノ短キノミ故ニ面セズ略服襲服ノ時半毋ノ物ニハ本綿ヲ用フ藍絞リシ半ニ絞リ柳ニ絞リ其他種々

京坂ハ地白小紋等ヲ都ニ襦半等其他モ小紋ヲ用フ用ヒズ江戸ハ近年小紋ヲ用ヒズ先等ハ三都ニ近年ハ羽折及ビ男女衣服式ハ下着ノ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

表ニ用ヒ其他女略帯等ニ後ヲ專トシテ小紋及ビ中形ヲ用ヒ

木綿襦半ニ襟ハ門前シ又木綿襦半女用ニハ袖口ノ方ニ縮緬ヲ覆フ表紫等 後ロ下ヨリ前ヨリ程ヲ紅縮緬等ヲ 幅三寸ハカリシ程

裏ヘ蓋表一二寸内ニ折返又

又木綿襦半ニ一程ノ製アリ小

民ノ婦女晴服ニ略服ニ全ク縮

緬ノ襦半ヲ制スル能ハザルモノハ

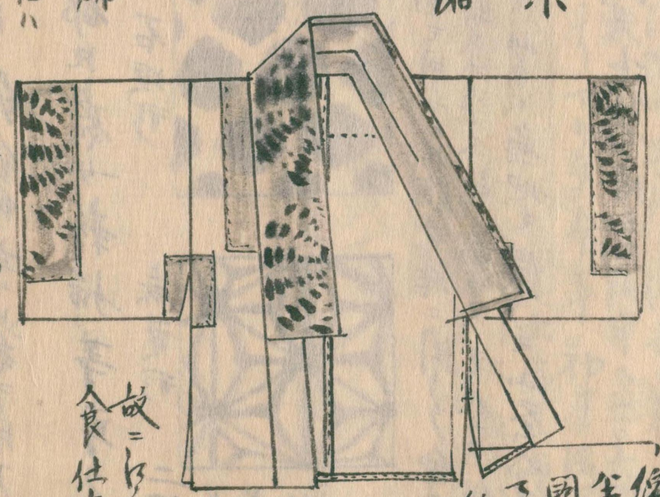
面ノ如ク襟ノ周リト ハコロノ辺ニ

聊ヅヽ緋縮緬キレヲ覆フテ

衣服ノ際ヨリ僅ニ見ユルヲアレハ緋

縮緬製ト見ユレ共襟袖ニ用フルハ

普通シ



白ノ丸ハ木綿薄墨ノ丸ハ縮メシ

縮メシ木綿ニ二半襦

半ハ服ノ面ノ如リニ

裏ヲシ 裾ヲ縫ヒアゲズ 婦女ニ

縫合セズシ 男女ニ

関服シ 明着モ日

ヲ、関服シ

江戸女太夫トカテ

三絃ヲモキ門ニ銭

ヲ乞者アリ其徒

ノ襦半ヲ此制ニ

故ニ江戸ニ俗ハ此製ヲ乞

食仕立ト云

男女ニ縮面襦半ハ女ヲヽ袷シ木綿襦半ハ必単シ長襦半ニ木綿十キシ

晴及ビ略服ニ他行等ニハ長ヲ用フレ共平日ハ專ラ長キヲ着ル又半身ヲ着ルシ

女ハ平日ヲ專ラ長キヲ着ル又半身ヲ着ルシ娼妓ハ更ニ半身ノ襦半ヲ着ズ

裏日ノ襦半縮緬ノモノ長半身ニ單モアリ蓋昏ニ浅黄木綿ヲ付テ

汗ヲ除ル又麻襦半モアルシ紅絞等シ袷衣服ヲ着ス頃暑ニハ木綿

單半身ヲ用

又近世ニ都テ小民ノ婦女ハ筒袖ヒトヘ

京坂ニテハ

男服ニ面アリ女用准ヘシ案ルニヲ祭リシ

又裏用襦半掛襟ニハ白紋紗ヲ專トシ

タル等モアリ蓋裏月ハ礼晴襦半ヲ

ハ着ヽ者稀シ 婚前ハ先不着ヽ 葬中ノ婦女ハ墨モ

ヽ者アリ

晴ヒ

又中民以下ノ婦女礼服晴服ノ時モ半襦半ヲ着上裳ヲ用
ス其他出ノ時ハ袷ノ女褌ノ形ニ似タルモノヲ女褌ノ表ニ重ネ着ル京坂ハ是
ヲ号ケ褌除スソトヨケトモ江戸ニハ是ヲ蹴出ケダシトス京都四五十年前ヨリ用
ル表縮緬唐ヲ襦半ニ縫又或ハ金糸彩糸ノ繍アリ京都ハ繍約ノ小故ニ
褌ノ換ルヲ厭ヒテ衣服ノ襖ヲ左右ニ帯ニ挟テ歩行スレド近年ノ流行シ京坂繍約ト雖モ実服ヲ好ノ故ニ此製ヲ
始ク大坂モ皆ヤ江戸モ二三年ノ近来製ヤ衣ノ妻ヲヤゲ挟ム也蓋
繍ヲ用ヒズ 京坂長襦年ハ表ヲ内ニ折返シ袷裾ノ製ナシ故ニ此裾モ必ズ
二寸内ニ折返シ褌ハ唐ヲ紅絹紅毛綿シ江戸ハ蹴出ノ裾或ハ表ヲ内ニ
折返シ褌紅絹或木綿 又或ハ袷裾ノ如ク褌二分ヲ出シ吹アルモアリ吹アルモノ
浅黄縮面シ 又京坂小民ノ妻女市中放婢等ハ裾除表一色ヲ用フヲ得ガル
モアリ古キ縮緬裁皮ヒ半衿袖ト等 縫合ヲ製ヤ 暖幕トモ云モノ、如ク
詰ノ色ヲ交ヘアルベシ

女羽織及ヒ半天 二都共ニ昔ハ婦女更ニ不着ヤ天保中出府ノ頃ハ剃髪
京坂モ文政末天保頃ヨリ黒チリメン仮髪ノ老婦ノミ黒チリメン仮髪ノ老婦ノミ
男ノ白傘ノ如ク婦女ノ羽折禁止ノ言アリ 従々着ル故ニ大坂天保中庶人ノ条中ニ
迫事ニ及ヒ老若ヲ論セズ羽織及ヒ半天ヲ用ヒ婦人ハ黒ヲ専トスル
其他ヲ用ル老婦尼形ノ婦ハ黒ヲ専トスル 南部チリメン
歩行ニ未黒又ハ紺ノ吾妻アリリンヲモ用フ先年ハ綿入ヲ専トシ呉絽以来他品
迄モ袷ヲ専ニ用フ

羽折ト半天ノ差別 男服ノ条下ニ詳カニス蓋女用ハ袂ト号ケシ服アテス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

振袖ハ昔時無異製而後有ニ振袖ヲ止袖ノ名出ツ振袖ニ對ス言シ又振袖ヲキルヲ止ルトヽ故ニ名トス蓋小兒ハ氣熾ナルカ故ニ古来小兒ノ服ハ腋ヲ縫テ今ヽアケ上京坂ニ人形トヽ云フニ似タリ氣ヲ洩ス腋アルヲ有ト特ニ振リ動ク故ニ名ク振袖長ケ始メ概尺寸左ノ番乃チ見ベシ

六尺袖トヽ一尺寸左右前後ヲ物ニテ六尺故ニ名トス弐ヽ身夫万治ノ古風ニ見ヨ六尺袖トヽ陸尺トヽ其袖長ニ似タリ故ニ又ソギ袖トヽ尺ヲ名トス又筝袖トヽ八尺袖ト書時ニヨリ大振袖トス

ヽ又袂トヽ故ニ名トス因ヽ当時民間ノ女童ヽ下髪ヲ毒トスルニ日重皆垂リ又此帯幅当時ノ凡ニ八廣ヲ追ヒ重帋ノ誤リ歟

貞享以来概ニ尺下番乃見ベシ

此番箱形チ大ニ帯ハ枝ニ乃チ見ヨヲ見トス

当時帯結形雑ニ可見ベシ

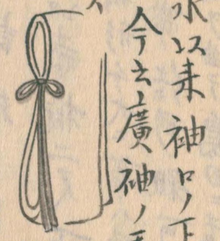
当時髪ヲ曲ヲ島田ニ結ベリ

貞享ノ古風

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

正徳享保以来二尺四五寸ニ左衽乃チ是ヲ
又宝永以来袖口ノ下ヲ惣テ縫
合セズ今ヲ広袖ノモノアリ左ニ
附衽ス



如此ニ袂ヲ縫ズ
袖口ノ所ニ総角ノ如キヲツケタリ是花街ノ禿トス童女ノミニ
当時概ニ
指揃アリ
但、紐ニハ非ニノ緋チリメン等ノクケ紐、文化前ハ京坂ノ女童モ
蘭盆婦等ノ時ニ緋チリメン振袖ノ袂ヲ縫ズ此総角ノ所ニ
五彩ノチリメンヲ幅二分バカリニクケ十餘條ヲツケタリ号テ卅ゲ
トス 十六大角ヨリトキモノニ似タル故シ此総モ其類ヒナルベシ

寛延宝暦以降今ニ至テ二尺八九寸其ノ高倹ニ應シ将ニ
地ヲ拂ントス

今世高貴ハ平日モ用ヒ京坂ノ富家富商平日用ヒ、京坂ノ十四五歳以下ノ歌
妓遊女等平日用ヒ、江戸ニテハ素ノ新造トモ娼ノ十四五以下用ヒ振袖トモ其他ノ娼妓用ヒ下稀シ中以下礼服晴服
ニ用ヒ平日不用ヒ京坂平日用ヒヲ常振袖トモ下民ハ礼晴ニモ用ヒ者稀シ
ゾウアリソウテト訓ズ

大振袖ニ對ス辞シ

江戸大名及ビ旗本万石以下ノ大禄ノ息女礼襲ニハ大振袖ヲ用ヒ又
大国大名ノ勝姫モ礼襲用ヒトス勝姫ノ中ニ小姓
士民巨戸ノ處女ハ礼晴着ヒ江戸ハ富民ノ女ト雖モ平日無用ヒ
又江戸帝都ノ處女大略十歳未満ノ者ニハ禮襲ニ振袖ヲ
着スヿ大戸ヨリ小戸ニ至リ用ヒ蓋敷領、童子着スル物無ニ振袖ニテ
又垂ニ袂ヲ縫ズ俗ニ之ヲ広袖ニ其長キ者弐ハ地ヲ拂フ蓋前面ノ
如リ総及ビ露等ヲ用ヒズ全ク之ヲ広袖ニス
又如此小女ニ用ヒヿ天保初以来ノ流布シ蓋礼服ニハ着ヒ用ヒ
山谷服田乃服ノ条ニ面ス
又十ヨリ三都共ニ婦ハ振袖ヲ用ヒズ少女ノミ用ヒ雖モ既ニ嫁テ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

或ハ未嫁者モ遠ヲ深テ眉毛剃ル事ハ京坂カホヲナホスト云江戸ニテ半元服ト云 新婦ハ着ヲ迎ル事振袖ヲ止ムノ時 神前ト号テ賀ヲナス又ハ京坂新婦ヲ迎ル者先ツ礼晴用ヲ調ヘ或ハ礼装用ヲ平日用ヲ悉ク礼装用ヲ帯ノ袖ト帯振袖ト云ニヤウフリソテハ訓ス

古画ヲ見ルニ男女共ニ童形ハ専ラ振袖ヲ着ニ殊ニ女ヨハ更ニ必ズ振袖ニ蓋昇平前ノ古画稀ニ職人尽ニ能合茅ノ画ニハ振袖アルコトナシ振袖ハ古ヨリナル中世以来ニ興ルハ衣服ノ条ニ記ス

凡昔ハ実ニ貧福貴賤ヲ撰バズ専ラ振袖ヲ着スベシ今世亦画ニハ三都ニ貴賤貧福ヲ云ズ振袖ナレモノアリノ雖モ今世平生着ル者京坂巨戸ノ処女ノニ礼晴ニハ中以上ノ着文ハ中以下ノ戸モ着ル京坂ヨリ以ニ況ヤ巨戸ト雖モ平日更ニ不着ル男子ノ着ル者大名旗本ノ息等礼晴着ル平日ハ着セズ真ニ豪富ノ息モ亦同ク中以下ノ男子礼服ニモ更ニ不着ル

今世モ芝居俳優ノ処女ニ扮スル者 都鄙貴賤貧富ヲ撰バズ専ラ振袖ヲ着セリ 当時ノ浄世絵ト号ヘルハ専ラ俳優肖像ヲ専務トス故ニ都ヲ此徒ノ画ハ自ラ芝居ノ扮ニ似タリ

後世ノ人今世ノ画稿ヲ以テ今世ノ当時ノ風俗トセバ誤謬多カラン

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

特別
ヘ
31
15

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

30
15

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41